





70歳からの - El Camino de Santiago -

サンティアゴ巡礼





#### スペイン語レッスン



《 新規開講入門クラスのご案内 (各クラス定員4名)

●2015年9月開講

月曜日 20:30-21:20 (2015年9月7日~11月23日) 木曜日 18:30-19:20 (2015年9月10日~11月26日) 金曜日 18:30-19:20 (2015年9月11日~11月27日) 土曜日 12:30-13:20 (2015年9月12日~12月5日)

#### 入会金 16,400円 OFF!!

(2015年10月末まで)

初心者の方対象の新しいクラスなので、スペイン語が全くはじめての 方でも安心してスタートできます!各クラス定員になり次第、締め切 りますので、お早めにお申込ください。

無料体験レッスンのご予約はお電話で承ります TEL:06-6346-5554

新規開講コースの日程が合わない方や、その他の曜日や時間をご希望の方はお気軽 にお問合せください。また学習経験者の方は、是非一度レベルチェックを兼ねた無料 体験レッスン(要予約)をお試しください。レベルに合ったクラスをご案内いたします。



スペイン語教室アデランテ (JR大阪駅「桜橋口」徒歩5分) TEL: 06-6346-5554 E-mail:info@adelante.jp www.adelante.ip

¥280

## スペイン・中南米 留学セミナー開催中!



#### www.spainryugaku.jp

スペイン留学.jp E-mail: info@spainryugaku.jp TEL: 06-6346-5554

いつかスペイン語圏に留学してみたいな … と考えているあなたへ! スペインの都市、学校・コース、滞在方法、費用、学生ビザ、準備方法等を 留学経験のあるスタッフが詳しくご説明いたします。 是非お気軽にご参加下さい!

セミナー後、個人カウンセリングもご予約承ります。

(日時)

9月23日(水・祝) 14:30~ 10月12日(月·祝) 14:30~ 11月23日(月・祝) 14:30~

セミナー所要時間 約40分/その後個別カウンセリング

※ 参加ご希望の方は、必ず事前にお電話にてお申込下さい。

【お申込・お問合せ】 有限会社ADELANTE TEL:06-6346-5554 E-mail: info@spainryugaku.jp



スペイン語の本&雑貨



www.adelanteshop.jp

8.000円以上のお買い上げで

送料無料

- 学習テキスト● 文法問題集
- レベル別副読本 絵本D.E.L.E.試験対策本 etc.

#### スペイン情報誌 acueducto 定期購読のご案内

定期購読をご希望の方に、送料をご負担いただき、ご自宅 までお届けしております。ご希望の方は、お申込書をお送 り致しますので下記連絡先までお問合せ下さい。

送料 1~7冊 ¥1,200 (1年間:4号分) 8~14冊 ¥2,400

ご入金後となります。

Asociación Cultural Española スペイン文化協会

有限会社ADELANTE TEL:06-6346-5554 E-mail:info@acueducto.ip

日本のスペイン語学習の現状を考慮した新しいスペイン語テキスト

1,944円(稅込)





Avanzamos

Con la colab



初めてスペイン語に触れる方対象 入門者向けスペイン語テキスト。 外国語学習に必要な4つの技能を伸ばします。

口頭表現

文章読解

聞き取り

✓ 2セメスター(1年間)かけて学習できるため、大学でのスペイン語の授業にも最適!

- ☑ プライベートレッスン、グループクラスの両方で使用可能
- ▼ オールカラー/CD付 写真やイラストが多く使われ、視覚やコミュニケーションに重点を置いたテキスト

adelante shop

【お問合せ・ご注文は】 有限会社ADELANTE 〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 info@adelanteshop.ip

#### Sumario

3 70歳からのサンティアゴ巡礼 文 杉本嘉孝

ブドウ色の地図から - スペインワインよもやま話 vol.5

**12** 海とブドウの地から 文·写真 渡辺万里

スペインを巡る旅 vol.1

LA ALHAMBRA DE GRANADA 文·写真 Antonio Gil de Carrasco

エコ・エスパーニャ Vol.9

19 ヘススさんのエコ・ワイン 文・写真 篠田有史

27 SEGOVIA LA KIOTO ESPAÑOLA 文 Turismo de Segovia 翻訳 井原亜紀

スペイン語で話そう Lección 4

これは何(色)ですか?

スペイン語講座 Lección 22

**32** 母音変化動詞の活用について(1) 文 (中井邦佳)

ビジネススペイン語 vol. 3

33 利益について 文 伊藤嘉太郎

音楽の時間

36 「バレエ・リュス」とスペイン その3 文 下山静香

HISTORIA DE HISTORIAS

39 スペイン内戦が生んだ「ロバート・キャパ」 第8話 文 川成洋

40 スペインのお勧めバール・レストラン vol.12 文·写真 田中富子 スペイン小橋 第4回 文・写真 土屋寛子

41 西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介 文・写真 谷善三 読者コーナ 「Fallasに参加して」 文·写真 Manuela Machiko

#### ご挨拶

スペインでも日本でも巡礼は盛んだ。しかし日本の巡礼地を訪れずに、むしろスペインの 巡礼地を巡る日本人が多くなっている。長期の夏休みを使って毎年、部分的に歩く巡礼者や 定年も迎えていざ巡礼に挑戦する人も多い。巡礼の目的はむろん、元来は宗教的なものであ った。スペインのカミーノ・デ・サンティアゴは、中世キリスト教徒スペイン人の信仰から生まれ 発展した。9世紀初頭のことだ。以来、ヨーロッパからの巡礼者は増加し、最盛期の12世紀に は年間の巡礼者数は50万を数えたと言われる。

今日の巡礼の目的は必ずしも宗教的なものではない。精神的なもの、観光的なものと、目 的はさまざまだ。今号の特集はサンティアゴ巡礼、主人公は70歳から巡礼を始めた杉本嘉孝 さんです。杉本さんの巡礼の目的は自己の内面を見つめ直すことだそうです。ある時は奥さん と、またあるときは1人で巡礼の道を歩かれる杉本さんの姿は、まさに日本人サンティアゴその ものである。

La peregrinación es muy popular tanto en España como en Japón. Recientemente numerosos turistas japoneses recorren el Camino de Santiago en España sin haber visitado previamente los lugares de peregrinación en Japón. No son pocos los nipones que en las vacaciones de verano o tras jubilarse realizan parcialmente o entera la ruta jacobea.

Antiguamente el único motivo de peregrinar era religioso. No es casual que la popularidad del Camino de Santiago en España provenga de la Edad Media, concretamente del siglo IX. Desde entonces fue en aumento el número de peregrinos y en el siglo XII llegó a alcanzar el medio millón de caminantes.

El objetivo actual de la peregrinación no siempre tiene su origen en la religión y puede ser espiritual o turístico. Este número de la revista se centra en el Sr. D. Yoshitaka Sugimoto, que inició la peregrinación jacobea a sus 70 años. El fin del Sr. Sugimoto al llevar a cabo el Camino de Santiago es volver su mirada hacia adentro. Recorriendo el camino, solo o con su esposa, el Sr. Sugimoto, se ha convertido en el jacobeo japonés.



坂東省次 ばんどうしょうじ/Shoji Bando 京都外国語大学スペイン語学科長・教授。京都セルバンテス懇話会代表。専攻はスペイン語学、日西交流史。 近著に『スペインを訪れた作家たち』(沖積舎)がある。



## acueducto 22

agosto 2015 vol.22 printed in Japan / FREE PAPER

発行元:

有限会社ADELANTE

〒530-0011 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2 F Tel: 06-6346-5554 Fax: 06-6110-5122 email: info@acueducto.jp

www.acueducto.jp ADELANTE Co., Ltd

ZFL. Chiyoda Bldg. West Annex 2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka 530-0001 Japón





本誌の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、 禁じられています。本誌の内容および広告に関しては、 発行元の責任の限りではありません。

Director: Shoji Bando 坂東省次

Alejandro Contreras アレハンドロ・コントレラス

Maquetación y diseño: Sachi Yamakage 山陰さち

Colaboradores: Yo Kawanari 川成洋

Kuniyoshi Nakai 仲井邦佳 Mari Watanabe 渡辺万里 Shizuka Shimoyama 下山静香 Yuji Shinoda 篠田有史 Koichi Hayashi 林コイチ Kaname Ikemoto 池本かなめ Azusa Matsumoto 松本あずさ Antonio Gil de Carrasco アントニオ・ヒル・デ=カラスコ Elena Contreras エレナ・コントレラス Jesús Martín へスース・マルティン

#### Colaboradores:



























































La Nave 22 46003 Valencia Pizarro, 10 46004 Valencia SPAIN

+34 963 530 404 info@ihvalencia.com www.ihvalencia.com





サンティアゴ巡礼路とは、キリスト教の聖地であるスペイン、ガ リシア州のサンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路のこと。9 世紀、イエスの12使徒の1人聖ヤコブの遺骸が見つかったことに より始まりました。最も古い巡礼の記録は951年。その後、最盛期 の12世紀には年間50万もの巡礼者が集まったと言われていま す。現在ではガリシア州の観光地としても人気があり、1000年以 上の歴史ある道のりを今なお多くの人が訪れています。





サンティアゴのカテドラル(左)と大香炉 (右)。カテドラルの天井から大香炉を 吊るして揺らし、香を行き渡らせる。かつ ては到着した巡礼者の体臭を消すため の儀式だった。

巡礼路はスペイン中に複数あります。距離は800km以上続き ますが、どこから歩き始めても構いません。100km以上歩いたこ とが証明できれば、巡礼証明書をもらうことができます。また、巡 礼の手段も人それぞれ。多くの人が徒歩でサンティアゴ・デ・コン ポステーラを目指しますが、自転車や、馬や口バで巡礼を行う人 もいます。また車や電車、バスなどで移動しても良いのです。

巡礼路で最も人気があるのは「フランス人の道」。多くの人が 「Saint Jean Pied de Port(サン・ジャン・ピエ・ド・ポー)」か ら巡礼をスタートします。ここからピレネー山脈を越え、途中ス ペインの4つの地方を通りながら、目的地サンティアゴまで、約 800km。期間は約1ヶ月が一般的です。



てカテドラルを目にする。















巡礼路では、巡礼のシンボルであるホタテ貝のマークの標識や黄色い矢印を見ることができる。目的地であるサンティアゴ・デ・コンポステーラを指し示すそれらの標識は、 巡礼者の道しるべ。手作りのものも多い。

写真提供:TURISMO DE GALICIA、日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会(山本眞一、脇阪昭生、坂原三郎)





## サンティアゴ巡礼

今回はサンティアゴ巡礼の大ベテラン杉本さんに初めて巡礼を行った時のエピソードをお伺いしました。

プロフィール

杉本 嘉孝 / Yoshitaka Sugimoto 大阪府出身。1937年生まれ。2007年 初めて巡礼路を歩き、以降2015年で8 回目の巡礼となる。



#### 巡礼手帳の発給

今考えてみると、かなり気負っていた 気がします。パスポートで本人確認が済 むと、巡礼手帳(クレデンシアル)を発行 してもらい最初のスタンプ(場所と日付) が押されます。これがないとこれから先、 巡礼宿(アルベルゲ)に宿泊できません。 いわば巡礼中のパスポート。2つ質問さ れます。

「あなたは何故サンティアゴ巡礼をする のですか?」

2つ目は「徒歩で、それとも自転車で?」 手段は「徒歩で」と答えましたが何故?と いう理由を尋ねられ、こう答えた。

「今年8月私は古稀を迎えます。この巡礼行を人生の1つの節目としたい。道中、 大自然に囲まれた中で静寂にしてかつ 霊感を受けるであろうこのカミーノ(巡礼路)を歩き自己の内面を見つめ自分自身と対話をする機会としたいからです」「ああなるほど、エスピリチュアルね」と言葉が返ってきて発行手続は終了。今思うと何とキザなセリフを並べたてていたことか。最初から気負いすぎ。70歳になるのはその通りだが、霊感ウンヌンは苦しいこじつけのようにも聞こえる。カトリック信者でない私が三大聖地の1つであるサンティアゴ詣を体験したいと必死にアピールしたのを思い出す。これが我が「初めての巡礼」の第1日目。2007年5月。場所はアストルガ(レオン県)の巡礼事務所。毎年春になると巡礼に出かける



巡礼手帳は道中巡礼宿やバルで押したスタンプでいっぱい。ページが足りなくなったのでノートを貼ってスタンプスペースを延ばしている(写真下)。

出発!



ようになった。

#### きっかけ

サンティアゴ巡礼を思いついたのは前年、某旅行会社のスペイン・ツアーに参加、観光地巡りをする途中訪れた1つがサンティアゴ・デ・コンポステーラだったからである。ここで1人の巡礼者に出会った。初老のスペイン人。彼は長い巡礼路を歩き続けやっとここサンティアゴ大聖堂に着いたばかりだった。満足感と達成感に満ちたいい表情をしていた。彼に尋ねた。

「私もカミーノを歩けますかね?」「そりゃ大丈夫。道中困った事に出会えばヤコブ様(スペイン語でサンティアゴ)がお助け下さるから」この一言は効いた。まさに背中をポンと押してくれたのだ。決心がついた。よし、来年はきっと巡礼に出かけよう、と。

ツアーから帰国後サンティアゴ巡礼に関

する本や案内書に目を通した。何冊も出版されていて初心者には大助かりだ。

コースは1番人気があるフランス道を選び、時期は5月から1ヶ月の予定とした。アストルガをスタート地点としたのは、ここからだと目標のサンティアゴまで約250km。「無理せず」をモットーに1日平均10km前後のペースなら辿り着けるだろうと計画を立てた。

案内書を読み進むにつれ段々と概要も 自分なりにつかめてきた。

装備には特に気を配り、まず履物は登山靴。重さ10キロ~12キロのザックを背負って毎日歩き続けるわけだから足元が最優先。平坦な道ばかりではない。上り下りのきつい坂道もあれば、ドロンコ道もあるという。ザックの中身は寝袋、マット、レインコート上下、サンダル、洗面用具、

カメラ、バッテリー充電器、湯沸器、ヘッドライト、胃腸薬等々。

体験話では「足にマメ」「靴ずれ」「膝の痛み」で苦しむ巡礼の話が必ず出ていて、生々しい写真もあった。手当て中の針と糸まではっきり写っている。これは他人事ではない。ましてや高齢者夫婦が「初めての」巡礼の旅に出ようというのだ。事前の足ならしを心がけ散歩を日課とした。道中、峠をいくつか通過するので高低差に備えて、京都の北西部に位置する愛宕山(あたござん・924m)へ4回、地元のポンポン山(678.9m)へ5回出かけた。できる限り念入りな準備を心がけた。

#### 第1歩のはじまり

アストルガで買った杖をつき、ホタテ貝 をぶら下げて歩き出すと姿は巡礼者に 変身。次の村へ着いたのは午後6時。ま だ明るい。すでに宿には10数人が到着し ていて楽しげに歓談している。私もその 仲間に入っていった。フィンランドから来 ていた女性3人組が物静かに話しかけ てきた。教師だという。日本の教育事情な ど熱心に尋ねられ、平素の不勉強を思 い知らされた。そばで盛り上がっていた のがメキシコ人巡礼グループだとすぐわ かったし、そんな中、黙々とメモ帳に何や ら記入していた中年女性は多分ドイツ人 かと思われた。世界のあちこちから巡礼 者は来ているのだと実感した。長身で敬 虔なオーストリア青年は1人旅だとか。国 籍も年齢もさまざまなのに1種の連帯感がすぐに生まれるのはサンティアゴを目指し旅を続けているという共通の目標を各人が共有しているからであろう。

シャワーと夕食を済ませ巡礼者同士の話がはずみ、これが情報交換の場となり更にはミニ国際交流の場となる。こんな毎日が巡礼宿であれ途中立ち寄るバルであれ必ず見られる光景なのだ。夜10時が消燈。投宿者は静かに就寝。だが時には「耳栓」も役に立たない程のイビキをかく人がいるのも事実。真夜中のリサイタルだ。不運と諦めるしかない。もともとアルベルゲにはプライバシーはないのだから。で、翌朝午前8時までには出立が原則。まだ早朝の暗い6時頃になると、

懐中電燈で持ち物を確認し足元だけを 照らし、そっと宿を出てゆく人、そして又 1人と。静かに「ブエン・カミーノ」(buen camino)と声をかけて見送る。相手も 「ブエン・カミーノ」(ではお先に失礼。あ なたもよい旅を)と返し宿を出てゆく。い よいよ今日の1日が始まる。この「ブエン・ カミーノ」は巡礼者同士の挨拶言葉で道 中出会ったり、すれ違う時、そして別れる 時にこの言葉を交わす。励ましの言葉に もなり感謝の気持ちの表現でもある。



ホタテ貝や瓢箪がぶらさがった杖。 お土産物屋さんなどでも買える。

国も年齢も違う人たちと 仲良く情報交換。国際交 流も巡礼の醍醐味!

## Albergue (巡礼宿) 巡礼者のための宿。 1泊おおよそ5~10€程度。 寄付制の宿もある。













#### 道に迷う

村の集落を出てしまうと自然の雄大 さに圧倒される。来てよかった。これ程 の景色を1人占めしているのだ。日を追 って慣れてくるとセンダ(小径)の花に目 をやり写真をパチリ、小鳥のさえずりに 耳を傾けながら歩く余裕も出てくる。万 物が自分に向かって「ブエン・カミーノ」 と励ましてくれているようだ。ルンルン気 分。だが調子にのりすぎて、道しるべの 黄色い矢印やホタテ貝のマークをうっ かり見落としたまま気づかずに進んで ゆくと大変。どうもおかしい、ひょっとし たらルートからはずれて歩いているので はないかと焦っていると、畑仕事の人が 我々に気づき親切に道を教えてくれた。 きっとヤコブ様が農夫の姿になって道 に迷ってしまった巡礼者を正しく導い て下さったのだと思ってしまう。カミーノ

は感謝の道であり救いの道なのだ。或 るアルベルゲで壁にこんな掲示があっ た。Turistas exigen.(あれこれ望むは 観光客) Peregrinos agradecen.(感 謝し旅を続けるは巡礼者)これを見てハ ッとした。サンティアゴ大聖堂の前で、巡 礼行に不安がっていた私を勇気づけ「大 丈夫」と言ってくれたあの初老のスペイ ン人巡礼者は、もしかしたら「ヤコブ様」 だったのではないかと思った。意外にも 足の痛みは殆どなく歩けている自分。い や歩かせていただいていると言わなけれ ばならない。スペインに居ながらグルメな ど全く無縁の毎日。宿に着きベッドが割 り当てられただけで、どれ程感謝の気持 ちになれることか。遅れて到着したほか の巡礼者が「満員です」と告げられ、再び 重い足をひきずり別の宿探しにゆく姿を 何度も見てきた。実は我々夫婦も「満員 です」と断られたことが3度ある。宿の管 理人としばらく押し問答になった。ベッド の有無は公平に到着順なのだ。半ば諦 めかけていたのだが突然彼の表情がや わらぎ自分の事務所兼個室でよければ 提供しようと言ってくれた。玄関口でザッ クをおろしたまま私と並んで立っている 家内は疲れて今にも倒れんばかり。この 姿を天上から見ていたヤコブ様が「この 夫婦を泊めてやりなさい」とお命じになっ たのだと信じています。感謝し翌朝無事 出立できたのは言うまでもない。又別の 所だったが管理人自ら車を運転し宿へ 届けてくれたり、3度目の時は電話でベッ ドの確認をとってくれ案内された宿に幸 い投宿できた。こうして、あちこちで助け られながらの巡礼の旅は続いた。

#### 何に引きつけられて巡礼は歩くのか

巡礼で大事なことは「歩く」「食べる」「寝る」とよく言われます。こんな単調な毎日を繰り返すにも拘らず、何故毎年多くの巡礼者が地元スペインは言うまでもなく世界各地からやって来て聖地サンティアゴを目指して歩き続けるのでしょう。2013年には21万6千人がサンティアゴを訪れているしその数は増える一方。サンティアゴ巡礼路そのものが世界遺産であるのも理由の1つでしょう。カミーノには教会、修道院が点在し、博物館、資

料館があり、美術・建築の壮大な展示場とも言えるのです。ロマネスク美術やゴシック様式のカテドラルなど挙げればキリがない。更に奇蹟・伝説に満ちあふれているカミーノだ。巡礼ならずとも魅了されるのは当然でしょう。素人の私にはとても語る知識も資格もありません。幸い多くの研究者たち、専門家、プロカメラマンによる著者の中で詳しく解説されていますので、これら諸先生方におまかせです。





#### スタンプ・ラリー

日を追うごとにサンティアゴに近づいている筈だがピンと来ない。巡礼手帳に押されていくスタンプの数と反比例して残りの距離が減っていくのは行程表でわかるが疲れは減ってくれない。夏休みなど子供たちに人気のあるスタンプ・ラリーを思い出した。立ち寄った先々でスタンプを押し所定の数に達したら景品がもらえる。巡礼者にとって「巡礼証明書」がこれに相当する。このご褒美は景品以上の価値のある1枚だ。但しサンティアゴ手

前100km以上を歩いたと証明されることが条件。宿泊したアルベルゲのスタンプは日付と共に必ず押してもらう。途中訪れた教会、礼拝堂でも押してもらえる。バルやレストランでもスタンプが用意されているところもある。







#### 引き算したら増えた

後ろから歩いて来たほかの巡礼者たちにあっと言う間に追いつかれ、追い抜かされる。「ブエン・カミーノ」と声をかけ相手も「ブエン・カミーノ」と返してくれる。今夜同じ宿に泊まるかもしれない。いや、あの速さなら更に先の宿に行ってしまうだろう。こうして出会い、再会し、そして別れを繰り返しながら巡礼はサンティアゴを目指して今日も歩き続ける。再び静寂に戻ると歩いているのは我々夫婦2人だけ。よくあることだ。今夜の宿を目指し「満員です」と断られないことを祈りつつ歩き続けるが疲れてくると思考力も落ちて、歩きながら歩いている状態。何だ!内面を

見つめ自己と向き合い対話するのではなかったのか。そんな声が聞こえてきたような。いや気のせいだった。疲れてきているのだ。何故今歩いているのか。答えは出てこない。スイスイと我々を追い抜いていった彼らと何が違うのか。「狩猟民族」と「農耕民族」か。今、そんなことはどうでもよい。やっと気がついた。ザックが重すぎるのだ。「何が必要か」ではなく「どれが要らないか」と考え方を切り換えた。カミーノを歩いて教えられた。早速不要と思われるモノを郵便局から日本へ送り返した。ダンボール箱1個分。これで気持ちがスッキリし格段に歩きやすい。歩くこ

との喜び度も快適さも一挙に倍増。これは巡礼行に限ったことではない。帰国したら身辺のガラクタ整理をしなくちゃ。後日知ったが、ザックの宅配サービスがあり、指定した宿まで届けてくれる。以後頻繁に利用した。

中世の佇まいを今にとどめているカミーノを歩き、ローマ時代の橋を巡礼は今日も渡る。その人たちのザックを運ぶ宅配サービス。中世と現代の奇妙な共存。バルに到着すると「カーニャ(生ビール)」を注文するのが当たり前のご時世。









緑豊かな巡礼路。晴れの日も雨の日もひたすら歩く。時には馬で巡礼を行っている人に出会うことも。



巡礼の無事を祈り、また感謝を込めて、旅人たちが石を積んでいく。

イラゴ峠手前の クルス・デ・フェーロ(鉄の十字架)。



#### カミーノは感じる道

これまでカミーノは8回しか歩いていない。直感だが毎回何かが違う。カミーノは歩く道ではあるが同時に「感じる道」であると知った。何かを感じる。では何をどう感じるのかを言葉や数字で説明できない。それでいいと思っている。自己と対話をしたいからなんて聞き苦しい屁理屈。自宅でもできるじゃないか。でも何かを感じることはある。

日本での日常生活とは全く違う時間の 過ごし方を余儀なくされる毎日の体験か ら得たものは多いし多くの人にも出会え た。再会もし、又別れた。これは巡礼なら ではの貴重な収穫だった。サンティアゴ に到着すると大聖堂に入りまずヤコブ様に無事に着きましたと報告。これまで道中お世話になったり親切にして下さった人たちへの感謝の気持ちも忘れまい。巡礼事務所で授与された「巡礼証明書」を手にすると、やっと巡礼は終った。だが本当の巡礼はこの瞬間から始まるのだと巡礼垂訓の1つにある。カミーノには出発点はあるが終点はないのだ。

では何故歩く?と尋ねられるたびに答え に窮してしまう。私自身よくわからないの だ。でも苦しまぎれの答えはこうだ。

「あなたも歩けばわかる」



文・写真提供: 巡礼の道の旅人 杉本 嘉孝



最初にこのワインに惹かれたのは、はっとさせるような名前がきっかけでした。 Mar de envero (収穫の海)。夏の終わり、ブドウの色が微妙に収穫期のそれへと変わって行く瞬間をenveroと言います。その色合いが広がるブドウ畑を海にたとえている。詩的で魅力的な命名だな、と思ったのです。そして実際に飲んでみたワイン自体も、大いに気に入りました。たとえエンベロの色を見る事は出来なくても、その畑に立ってみたい。私は、冬のガリシアを訪れることにしました。

ガリシアのワインといえばアルバリーニョ、と 大部分のスペイン人が答えるでしょう。アルバ リーニョとは、赤ワインに比べると白ワインの 種類も消費量もずっと少ないスペインで、唯一 といってもいいくらい昔から愛されて来たフル ーティな白ブドウの名前で、主にガリシア地方 の海沿いの一帯で作られています。そしてブド ウだけでなく、そのブドウで作ったワインのことも「アルバリーニョ」と呼ぶのが昔からの習慣です。現在の指定産地呼称制度では、この一帯のワインには「リアス・バイシャス」という名前がついているにもかかわらず、いまだに「アルバリーニョ」と呼ぶ人が多いということも、このブドウがいかに土地に根付いた品種であるかを物語っているでしょう。

ただ最近までのリアス・バイシャスは、そのフルーティさゆえに合わせる料理はごく限られてしまう、というのが私のおおまかな印象でした。茹でた魚介類を大皿に豪快に盛り合わせるマリスカーダにはぴったり。でも、複雑な立体感のある料理には軽すぎる。抑揚がない。そんな長年の私の偏見を吹き飛ばしてくれたのが、今回訪問するボデガのワインなのです。まだ若い作り手のマーニョがどんなワイン造りを見せてくれるのか、大いに私の好奇心がそそられます。



【写真左】ブドウ棚の高さを説明しているマーニョ。【写真右】1. 現在のボデガの正面には、なだらかな起伏のブドウ畑が続いている。2. カンバードスの海。ガリシアではもっともスタンダードな曇り空。3. アルメンテイロ修道院の入り口。4. 同じく、石積みの美しい回廊。









サンチャゴの空港へ迎えにきてくれたマーニョは、畑へと向かいながら早速、ボデガを作るに至った彼の歴史を語ってくれました。

「若い頃はワインに特に興味はなかった。でも専門学校で化学を専攻しているうちに、ワイン作りも化学だと思うようになった。そして始めてみたら、化学よりずっと面白いことがわかったんだ!」

地元の醸造所でワイン造りの勉強を始めたマーニョは、リアス・バイシャスの魅力に次第にはまっていきます。

「ある時車で走っているとき、一面のブドウ畑を上から見渡せるところがあった。畑が連なっている向こうは、ガリシアの海。ブドウと海が繋がっている。そうか、これはブドウの海なんだなと思った。ブドウが熟れて色づき始めた時、つまりエンベロだったらもっと凄いだろう。海、ブドウ、エンベロ。で、ボクの頭のなかに『マル・デ・エンベロ』という名前が生まれたんだ。そし

て自分でワイン作りをすることになった時、最初に思ったのは、ワインの名前はもうある、ということだった。」

ボデガに行く前に立ち寄ったのは、アルメンテイロ修道院でした。どっしりした石積みが、雨の多いガリシアでは苔むして、乾燥したスペイン南部とはまた違うしっとりした色合いに古びています。そこにしとしとと雨が、こちらの人がチリミリと呼ぶ霧雨が降っています。

「この修道院を作ったシステル派の修道僧たちが、アルバリーニョをガリシアに持って来たと言われている。つまり、この修道院がリアス・バイシャスのルーツなんだ。それが12世紀の話。だからもう、アルバリーニョはれっきとしたウバ・アウトクトナ(在来種のブドウ)だよ。」

クラウストロ(回廊)から緑の美しい中庭を 見ながら、ここでブドウを育てワインを作った お坊さんたちのことを考えます。かつてスペインの各地に、ワイン作りを人々に教え、産業と してのワイン造りの基礎を作ったお坊さんたちがいました。豊かだからこそ、勢力を持っていたからこそ、彼らは文化や教育の一端を担い、食文化の発展にも貢献していたのです。

ブドウ畑に着いても、マーニョの講義は続き ました。

「ここのブドウの作り方は、スペインの他の地方とは全然違う。こうして180センチから200センチの高い棚にするんだ。雨が多くて日照時間が少ないから、高いところで少しでも多くブドウに太陽が当たるようにする。同時に水はけを良くして、ブドウの木が腐らないようにする。ポダ(ブドウの剪定)も、枝ごとに房の数を限定して栄養がいきわたるように、限られた枝しか残さない。こうしてこそ、質のいいアルバリーニョが出来るんだ。」

日本ではブドウは棚になっているほうが当たり前なのだ、と私がコメントすると、じゃあ日本

でもアルバリーニョが作れるかもしれないね、とマーニョ。もう信州では試作しています、と言うと彼は、今すぐにでも信州に行って作り方をアドバイスしそうな勢いです。

「この辺の畑の特徴といえば、この石の柱だね。ブドウ棚を支える支柱は、昔は全部石の柱だったんだ。最近はいちいち石を運んだりできないし石も足りないから木の柱のほうが一般的だけどね。」

確かに、畑のふちにずらっと太くて立派な石の柱が使われているのが目を引きます。畑が大事だからこそ、すぐ腐る木ではなくて石を使った、昔の人の思いが感じられます。

小さい村からさらに外れた、ブドウ畑のただ中のごく普通の2階建ての家の前で、車が止まりました。

「ここが僕とソシオ(共同経営者)のボデガだよ」

「これがボデガ?」

最近ずっと、何代も続く老舗ボデガの堂々たる建物ばかりを見て来た私は、いささかびっくりしてしまいました。

「まだこれだけ。これから段々に育てていくん

だから」

私が日本で見初めてはるばる見学にきたワインは、こんな小さなところで作られていたのか、と私はいい意味で感動してしまいます。親から受け継いだわけでも資本があったわけでもなく、本当に自分で始めたボデガ。そこで、自分らしいワインを作ることが実現しつつあるなら、素晴らしいことです。

彼の作っている2種類のワインを試飲します。私のお気に入りのマル・デ・エンベロは、スペインではまだ数の少ないsobre lías(シュール・リー)という作り方をしています。原酒の澱(おり)を残した状態で長く置くので、澱の主体である酵母菌が変化してワインに独特の味わいや深みを加えてくれるのです。この作り方が、アルバリーニョをフルーティだけに終わらないシリアスなワインに仕上げている秘密なのです。

でも今日は、もう1種類の若いワインにもどきっとしました。抜栓してすぐに誘い込むような香りと華やかな味わいを展開するこのワインも、とても魅力があります。マーニョはこのワインを「canalla (図々しい、遠慮をしらない奴)」

と表現しますが、そんなざっくばらんな表現が似合う、若い人のために作ったような楽しいワインです。それぞれ異なる個性をもつ2種類のワイン、異なったシーンで楽しんでみたくなります

帰る前にぜひ見てほしいとマーニョが連れていってくれた先は、雑草の茂る土地でした。 杭で囲ってあるだけで何もありません。

「ここに、自分の思う通りのブドウ畑を作るんだ。あそこの斜面の上には、モダンでシンプルなボデガを。そこで、ガリシアの文化を紹介するイベントなんかもやりたいなあ。ほら、ここから傾斜がゆるやかに続いているだろう?これがブドウの水はけには最高なんだ…。」

他人の目にはまだ、ただの空き地にしか見えない広い地所を指差すマーニョには、ここにこそ彼自身の色づいたブドウの海、マル・デ・エンベロがありありと見えているのだ、と私は確信しました。その夢が実現する日には呼んでね、日本から来るからと私たちは約束を交わしたのでした。













【写真左ベージ】 1. 石の柱で支えられたガリシア独特のブドウ棚。 2.3. 4.5. マーニョのボデガ。 6.将来の「マル・デ・エンベロ」予定地。 【右ベージ】 7. 若手女性シェフ、ルシア。 8. 9.10.11.どれも繊細な、ルシアの料理。

サンチャゴ・デ・コンポステーラは、中世から カトリックの聖地として栄えた町。どっしりした 石造りの家々がぎっしりと詰まった旧市街に は、どの路地をたどってもまたカテドラルに戻っ てくる迷路のような道が連なっています。カテド ラルのすぐ裏のそんな路地に、ルシアのレスト ランがありました。

今回の取材にルシアの店を選んだのは、ネット上で見るルシアがまだ若い女性シェフで、その若々しい姿が、私にもう1人の女性シェフを思い出させたからだと思います。そのシェフとは、トニ・ビセンテ。スペインの料理界で注目を浴びた、最初の女性シェフです。

短めにカットした金髪の頭を軽く屈めながら、繊細な盛りつけの料理を完成させているトニの写真が、料理を志そうというスペインの若者たちの心をワクワクさせたのは、もう30年も前のことになります。

「ホタテ貝は、殻に載せてカチカチになるまで焼いて出すもの、と思っている人たちに、私のホタテ貝のサラダを出したとき。このホタテはまだ半分生だよ、と突き返される皿を見てどんなに悔しかったか!」と語る彼女のキラキラした

瞳を、私はよく覚えています。スペインの新聞が「料理界のジャンヌ・ダルク」と呼んだトニが切り開いた道に、今活躍している大勢の若い女性シェフたちが続いていると言ってもいいかもしれません。

ルシアは私の話に、深く頷きました。 「その通りね、トニは今でも私たちの尊敬する 大先輩よ。」

そしてルシアの料理は予想以上に素晴らしいものでした。的確な量と選び抜いた器で出てくる料理の一皿一皿は、そのまま日本料理のコースに出て来てもおかしくないような繊細さにあふれ、どれも彼女が心から美味しいと思うもの、心から作りたいと思う料理であることが、何の説明もなくても伝わってくるのです。しっかりしたコンセプト。的確なテクニック。ずば抜けた美的センス。スペインのガストロノミーシーンはフェランで終わったわけではない、こんな凄い若手があとに続いているのだ、と久々に嬉しくなります。

ワインは勿論、最初の一皿からメインの肉料理まで、すべての料理にマル・デ・エンベロを。文句無く、素晴らしいマリアージュでした。

肉料理にも負けないインパクトのある白ワイン の登場は、スペインのワインの常識をちょっぴ りだけ揺るがしてくれるかもしれません。

ガリシアの明日を背負ってくれそうな若い2人と知り合えただけでも、素敵な旅でした。そしてルシアとの出会いは、私にもうひとつのことを思い出させてくれました。私の専門はガストロノミア、食だということを。

私にとってワインは魅力的なテーマではあるけれど、本業ではない。ワインについてなら、いくらでも専門的に解説できる方がいらっしゃるでしょう。私はむしろ、40年近く関わって来た私でなくては語れない、スペイン料理そのもののことを、もっと皆さんにお伝えしていかなくては・・・・

ですから、この「ワインよもやま話」は今回で終わりです。私の記事を通して、スペインのワインやワイン造りの人たちに興味を持っていただけたなら、望外の喜びです。お料理の話で、またおめにかかりましょう。 (終)











#### Información

#### 今回訪れたボデガ

Bodega Mar de Envero

Lugar Quintans 17, 36638 Ribadumia, (Pontevedra) España Tel: +34 981 566 329 HP: www.mardeenvero.es

#### レストラン

Tafona casa de xantar

Calle Rua Virxe da Cerca 7, 15703 Santiago de Compostela, (La Coruña) España Tel: +34 981 562 314 HP: www.restauranteatafona.com



#### ■ 渡辺万里 わたなべまり / Mari Watanabe

学習院大学法学部政治学科卒。1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。1989年、東京・目白に「スペイン料理文化アカデミ」を開設。さらに各地での講演、執章などを通じてスペイン文化の紹介に携わっている。早稲田大学文化構想学部非常動講飾、著書に「エル・ブジ究極のレシビ集」(日本文芸社)、「修道院のうずら料理」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの竃から」(現代書館)、「スペインの電から」(現代書館)、「スペインの電から」(現代書館)、「スペインの電から、「スペインの電から、「スペインの電から、「スペインでは、スペ

くスペイン料理文化アカデミー> スペイン料理クラス/スペインワインを楽しむ会/フラメンコ・ギタークラスなど開催 マープ・10031 東京都豊島区目白4-23・2 TEL: 03-3953-8414 HP: www.academia-spain.com



i reuniésemos hoy a los más prestigiosos arquitectos del mundo, a creativos de todos los campos, ingenieros y artistas, sin otro modelo que su imaginación, nunca darían con una construcción como la Alhambra de Granada.

現代の名だたる建築家、どんな分野のクリエーター、技術者、芸術家が集まりその想像力をもってしても、グラナダのアルハンブラ宮殿をつくることはできないでしょう。

Cuando llegamos a las faldas de Sabika, montaña que alberga esta impresionante construcción, apenas la percibimos, tímidamente camuflada entre arboledas y los sencillos materiales que la constituyen. Se sobrecoge el ánimo a medida que vamos ascendiendo y nos vamos dando cuenta de sus dimensiones, de su perfecta adecuación con el medio que la arropa.

この素晴らしい建築物の建つサビカの山裾に到着すると、木立ちと 簡素な建築材とに遠慮がちにカムフラージュされたアルハンブラがか すかに見えてきます。さらに登ってゆくと、わたしたちは恐れを抱くほど の規模そして見事なまでの周囲の環境との調和に圧倒されます。

¿Qué es esto? Nos preguntamos ¿De qué mentes surgió este palacio-fortaleza como si fuera una protuberancia de la tierra custodiada por Sierra Nevada? De nosotros, de estos dos pueblos, cuna a su vez de muchos otros, de Omeyas y andaluces, de bizantinos y romanos. De ese poso milenario surgió esta joya arquitectónica que llamamos la Alhambra de Granada.

「これは何だ?シエラネバダの麓にまるでその土地の隆起のような宮殿・城塞を建てるとは、誰が思いついたのだ?」それは私たちの、つまりウマイヤ人とアンダルシア人、ビザンチン人とローマ人、多くの民の源流であったふたつの民の産物なのです。長い年月をかけ堆積されたものからグラナダのアルハンブラという宝石が生まれました。

Esa simbiosis que se logró establecer entre la forma única de la Alhambra, con espacios abiertos recorridos por el agua que fluye de fuentes y discurre por albercas, los árboles que le dan el color preciso que no cansa a la vista y los materiales elegidos, aparentemente frágiles como el estuco y la escayola, pero que han logrado sobrevivir al tiempo sin apenas deterioro, es el marco en el que se desarrolló esa convivencia ejemplar. Cuando uno penetra en este recinto monumental, lo primero que siente es paz y adecuación a lo que le circunda. Paseamos por sus jardines, atravesamos sus distintos palacios y sentimos que no hay conflicto entre nuestro interior y el paisaje en el que nos desenvolvemos.

他に類を見ない独自の様式を持つアルハンブラは、泉や貯水槽から 流れ出す水が循環する開かれた空間です。木々は美しい色彩を与えま す。漆喰や石膏などの建材は一見もろそうに見えますがほぼ損傷する ことなく残り、見るものを楽しませ、また私たちの手本となる共存の場を 育んでいるのです。この堂々たる建物に一歩足を踏み入れると、平和そ して周囲との調和を感じます。さらに庭を散策し数々の宮殿を巡ると、 自分の内なるものと周囲の景色との間にある摩擦は瞬時に消え去るの です。



(左上から時計回り) Decoración de las paredes con emblemas religiosos 宗教的文様で飾られた壁 / Torres de la Alcazaba アルカサバの塔 / Patio de los Leones 獅子の中庭 / Techo de Mocárabes de la Sala de los Abencerrajes アベンセラへスの間のモカラベの天井

He hablado de elementos aparentemente frágiles, pero precisamente ahí reside otra de las maravillas de la Alhambra. Los impresionantes mocárabes de la Sala de los Abencerrajes y de las Dos Hermanas, los capiteles granadinos de mármol del Patio de los Leones, el trabajo geométrico que decora la mayor parte de las inscripciones de la Alhambra, o el rico artesonado de madera policromada con incrustaciones del Salón del Trono, dejan sin respiración por aquella perfección artesanal, aquel lujo de imaginación que lo rodea.

外見はもろそうに見えると述べましたが、ここにまたアルハンブラの 素晴らしさがあります。アベンセラヘスの間、二姉妹の間の印象的なモ カラベ(イスラム建築の鍾乳飾り)、獅子の中庭の大理石のグラナダの 柱頭、といったアルハンブラの碑銘の大部分を装飾する幾何学模様、 王座の間の天井に見られる多色装飾木材細工の豊かさ、そのイマジネ ーションの豪華さと手工業の完璧さには思わず息をのみます。

No deja de ser relevante el hecho de que en 1952, cuando Europa estaba buscando un nuevo modelo arquitectónico, un grupo selecto de arquitectos españoles se reuniese en la Alhambra y redactase un manifiesto: el Manifiesto de la Alhambra, en el que exponían las razones por las que este maravilloso palacio debería constituirse como modelo arquitectónico para el mundo; modelo de una arquitectura urbana para que los seres humanos habitasen lugares donde sentir el alivio y la tranquilidad de formar parte de la propia naturaleza.

1952年、ヨーロッパで新たな建築モデルが模索される中、選りすぐり

のスペイン人建築家グループがアルハンブラに集まり、ある宣言をした のも頷けます。その宣言は、このすばらしき宮殿を世界の建築モデルとす べき理由が述べられています。人間は自然の一部であり、癒しや静けさ を感じられる場所に居住するべきであるという都市建築のモデルです。

Esta maravilla está viva, en Granada, y es visitada por más de 100.000 japoneses anualmente, lo que me hace pensar que la Alhambra es considerada como un modelo arquitectónico único y símbolo vivo de la convivencia entre los pueblos.

この理想の場所はグラナダで生き続け、日本からも年間10万の人が 訪れています。アルハンブラは唯一無二の建築モデル、民の共存のシン ボルとして考えられるのではないかと私は思います。

> Fotos(写真): María Ángeles Ibáñez Sánchez Traducción(翻訳): Miyuki Tabei

#### Alhambra (アルハンブラ宮殿)

住所: Calle Real de la Alhambra, s/n, Granada Tel: +34 902 441 221 HP: www.alhambradegranada.org

3月15日~10月14日まで 毎日8:30~20:00 夜間の入場もあります ※詳細はHPでご確認ください





#### Antonio Gil de Carrasco

Nació en Granada en 1954. Escritor y periodista. Doctor en Letras, Licenciado en Filosofía y Letras, Diplomado en Educación General Básica. Actual Director del Instituto Cervantes de Tokio. アントニオ・ヒル・デ=カラスコ 1954年グラナダ生まれ。作家、ジャーナリスト。文学博士。哲文学部卒業。

教職課程履修。セルバンテス文化センター 東京(日本)現館長

## VEN AL COLEGIO DELIBES... ; SALAMANCA TE ESTÁ ESPERANDO!

コレヒオ デリベスにお越しください。 サラマンカがあなたを待っています!

歴史、芸術、学生の街として有名なサラマンカ。 この街では、訛りのないスペイン語が話されているため、 スペイン語を学ぶのにぴったりの環境です。 コレヒオ デリベスの教室で学ぶスペイン語は、サラマンカの通りで耳に

するスペイン語とまったく同じです。ここでは訛りのない美しいスペイン語 を学ぶことができるのです!

やすい雰囲気の両方を兼ね備えています。



#### コレヒオ デリベスでは・・

- 個人カウンセリングや希望に応じた柔軟な対応
- 14種類にも及ぶインテンシブコース(1日4~6レッスン)
- レベルは全14レベル
- 学生は若者からシニア層まで40ヵ国の国々から
- クラスの人数は最大10名
- 学校が厳選した滞在先(ホームステイ・学生寮・シェアアパート・個人用アパート・ホテル)
- スペイン文化やスポーツなど様々なアクティビティを提供
- エアコン完備の26教室と図書室
- スペイン料理教室



**Colegio Delibes** Avda. Italia, 21 37007 Salamanca. España

Tfno: +34 923 120 460 Fax: +34 923 120 489 www.colegiodelibes.com delibes@colegiodelibes.com



ヘススさんのブドウ畑は代々受け継がれてきたもので、古い木が多い。

Eco España

スペインの"エコ"を お届けします

vol.9

ヘススさんのエコ・ワイン

写真·文 篠田有史

スペインは、フランスやイタリアと並ぶワインの一大生産国である。 特にスペイン北東部のラ・リオハ州は有名だが、中央部のラ・マンチャ 地方でも古くから美味しいワインが作られている。

ラ・マンチャ地方の「ワイン街道 (Caminos del vino)」には、年間 何千万リットルも生産する大きなワイナリーから小規模なものまで、沢 山のワイナリーが存在する。その中に、特にエコにこだわりワインを作 っている小さなワイナリー (Bodega La Tercia) がある。





ワイナリーは古い民家を改築したもの。











1. 収穫をするヘススさん。2. 最近、増産するために郊外の倉庫をワイナリーにした。3. Bodega La Terciaでは赤・白・ロゼの3種類が作られている。4. 作業には機械操作が欠かせないが、技術者だったヘススさんにはお手のもの。

へスス・サンチェス・アテオスさんは技術者だったが、20年前、かつてワイナリーがあった古い民家を買い取り、改築してワイン造りを始めた。33へクタールの畑で、有機栽培でブドウを育て、たった2人でワインを作りはじめた。5年前その量は、6万リットルだったが、現在は15万リットルにまで増えている。大きなワイナリーと比べるとまだ圧倒的に少ないが、それはヘススさんがエコと味にこだわっているからだ。防腐剤も一般的なワインの3分の1しか使っていない。すべてをできるだけ天然の状態で作ろうとするとそんなに大量にはできない、とへススさんは言う。

ブドウの栽培には、農薬はまったく使わない。それを可能 にしているのは、ラ・マンチャ地方特有の気候。冬の寒さと 夏の乾燥した極端な暑さが害虫やカビの発生を妨いでいるのだ。ヘススさんのブドウの木は古いものが多い。樹齢100年を越えるものもある。古い木は実の数も少なく粒も小さいが、濃厚で甘い実をつけ、美味しいワインに適しているという。収穫の時期が近づくと、毎日ブドウ畑にきて注意深く実を観察し、収穫の日を決める。そして、ひと房ずつ手作業で収穫する。

以前は、エコに関心の深いイギリスやドイツなどへの輸出しかなかったが、2011年、フロリダ国際ワイン・コンクールで金賞を獲得したこともあって、2013年からは日本にも輸出をしている。



#### 篠田有史 しのだゆうじ / Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。

を取り続けている。 【写真展】スペインの小さな町で(冨士フォトサロン)、遠い微笑・ニカラ グア (〃) など。 【本】「ドン・キホーテの世界をゆく」(論創社)「コロンブスの夢」(新潮社) 「リゴベルタの村」(講談社)などの写真を担当。 スペイン&中南米への留学相談、手続き代行無料サービスのスペイン留学.jp



www.spainryugaku.jp

地方ごとに異なる特色を持った魅力溢れる国、スペイン♪

あなたはスペインと言ったら何を思い描きますか?

フラメンコ、サッカー、闘牛、白い家、サグラダ・ファミリアなど...

お気に入りの街が見つかれば、より充実した留学生活になることでしょう。

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。

ここでは、代表的な留学先をいくつか紹介していますが、

この他にも多くの学校をご用意しております。

まずは、電話やメールでご相談下さい。

スペイン留学. jp では、カウンセリングを行い、

一人一人のご希望に合った学校を提案いたします!

※料金は 1€=135 円で計算した 2015 年 8 月のものです。 入学金や宿泊先斡旋料、夏期料金などが加算される学校 もございますので、詳細につきましてはお問合せ下さい。

#### (1) サラマンカ Salamanca

1218 年に創立されたスペイン最古 の大学がある学生の街。カテドラル、 大学、貝の家、マヨール広場など美 しい建物が多く、旧市街全体が世界 遺産に登録されています。



## <コレヒオデリベス>

	2週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース (20 時間 / 週)	346€ / 46,710円	2.880€ / 388,800円
ホームステイ (個人部屋 /2 食付)	280€/37,800円	3.360€ / 453,600円
共同アパート (個人部屋/食事なし)	210 € / 28,350 円	1.860€ / 251,100円



#### 2 マドリード Madrid

プラド美術館や王宮など見所いっぱ いの活気溢れるスペインの首都。休 日にはショッピングやバル巡り、アー ト観賞を楽しむことができます。ス ペインの中心に位置するマドリード は他の都市へのアクセスも良好です。



<エンフォレックス マドリード校>

1-2332222		
	1週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース (20 時間 / 週)	310€ / 41,850円	3.240€ / 437,400 円
ホームステイ (個人部屋 /2 食付)	229€ / 30,915円	5.496€ / 741,960円
共同アパート (個人部屋/食事なし)	175€ / 23,625 円	3.360€ / 453,600 円

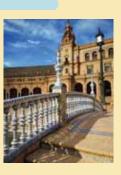
#### (3) セビーリャ Sevilla

太陽と青い空が似合うスペイン南部、 アンダルシア地方にある街。バスや 電車で少し足を延ばすと、まるで絵 ハガキのような白い村が点在し、陽 気でのんびりとした空気を肌で感じ ることができます。



#### <クリック IH ヤビーリャ校>

C/9// III CC 9 PAX		
	1 週間あたり	
一般集中スペイン語コース (20 時間 / 週)	180€ / 24,300円	3.600€ / 486,000円
ホームステイ (個人部屋 /2 食付)	160€ / 21,600円	3.840€ / 518,400円
共同アパート (個人部屋/食事なし)	100€ / 13,500円	2.400€ / 324,000円



への留学も可能です!

スペイン留学 .jp では、スペイン各地の大学とも提携しています。 大学付属の語学コースに興味のある方はぜひ一度ご相談下さい。

#### <提携先>

大学	地域
サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学	ガリシア州
サラゴサ大学	アラゴン州
レオン大学	カスティーリャ・イ・レオン州
バリャドリード大学	カスティーリャ・イ・レオン州
アリカンテ大学	バレンシア州
マラガ大学	アンダルシア州
アルカラ大学	マドリード州

#### 例) サラゴサ大学 1月開講 10週間

スペイン語コース (月~金 9:00~13:30) 815€ ホームステイ (個人部屋・3 食付) 600€

1.415€ / 191,025円

※上記金額は2016年度コースの料金です。

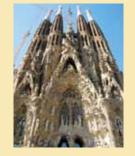
大学の語学コースは、

コース日程が決まっていることが多いので、 まずはお気軽にご相談下さい♪



## 6 バルセロナ Barcelona

スペインの中でも独自の歴史と文化を育んできたカタルーニャの都。ガ ウディやダリなど数多くの著名人を輩出。「芸術の街パルセロナ」には、 今も街のあちこちに多くの芸術作品 が残されています。



#### <u>don</u> Quijote

#### <ドン・キホーテ バルセロナ校>

ベーン・イボーグ アルレビログ 校グ			
	1週間あたり	24 週間あたり	
一般集中スペイン語コース (25 時間 / 週)	199€ / 26,865 円	3.576€ / 482,760 円	
ホームステイ (個人部屋 /2 食付)	234€ / 31,590 円	5.616€ / 758,160 円	
共同アパート (個人部屋/食事なし)	175€ / 23,625 円	3.360€ / 453,600 円	

⑥ バルセロナ

カタルーニャ

バレアレス諸島

#### (5) バレンシア Valencia

「火祭り」とパエージャ発祥の地と して有名な、スペイン第3の都市バ レンシア。 地中海性の温暖な気候で、 ビーチリゾートとしても知られています。



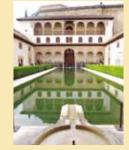


#### <エスパニョーレ・インターナショナルハウス・バレンシア>

	1週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース (20 時間 / 週)	160€ / 21,600円	3.120€ / 421,200 円
ホームステイ (個人部屋 /2 食付)	185€ / 24,975 円	4.440€ / 599,400円
共同アパート (個人部屋/食事なし)	110€ / 14,850円	2.640€ / 356,400 円

#### (4) グラナダ Granada

アルハンブラ宮殿があることで、世界的に有名なグラナダは、アラブ文化の名残をとどめる古都。都市の規模はそれほど大きくありませんが、落ち着いた美しい町並みが素晴らしく、訪れる価値があります。



#### <del>don</del> Quijote

#### <ドン・キホーテ グラナダ校>

くいつ・イホーテー グラアダベン			
	1週間あたり	24 週間あたり	
一般集中スペイン語コース (25 時間 / 週)	165€ / 22,275円	3.336€ / 450,360 円	
ホームステイ (個人部屋 /2 食付)	154€ / 20,790 円	3.696€ / 498,960 円	
共同アパート (個人部屋/食事なし)	130€ / 17,550円	2.520€ / 340,200円	

#### ▶▶ ご出発までの流れ

留学カウンセリング、お見積り

「どの街にしよう?」「費用はどれくらい?」「何から準備すればいいの?」 など、漠然とイメージされている留学ブランや、目的・期間・ご予算など、 まずはメールやお電話でお気軽にご相談下さい。

- 2 具体的に学校、コース、滞在スタイルなどのプログラムが 決まれば、留学手続代行申込書を提出
- ③ 入学手続き開始
- 4 航空券や保険、国際キャッシュカードなどの情報収集
- 5 ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集め、 在日スペイン大使館へ提出

90 日以内の留学なら学生ビザは不要ですが、91日以上の留学には学生ビザが必要です。短期学生ビザ(91日以上180日以内)取得の場合は、ご出発の約2ヶ月前、長期学生ビザ(181日以上)取得の場合は、ご出発の約3ヶ月前に時間に余裕を持って提出して下さい。

- 6 留学費、海外送金手数料のご入金
- 航空券、海外保険、学生ビザなど必要なものが揃えば、 いよいよご出発!

#### <当サポートサービスの範囲>

- ・選択された学校への出願サポート
- サポート依頼を頂いた学校が手配するホームステイ、学生寮、 共同アパートなどの宿泊先申込手続(混雑状況によりご希望に添えない 場合がございますので、事前にご確認下さい)
- 留学費用の海外送金
- ・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行
- ※未成年の方は、必ず保護者の方に同意を頂いた上、お申込み下さい
- ※パスポートやビザの申請、航空券・海外保険の手配などは含まれませんので各自でご準備下さい
- ※海外送金手数料(6,500円)はご負担となります

世界遺産都市(セゴビア市)と神戸市外国語大学スペイン語教授(サンス博士)考案の留学プログラム

## セゴビア充実体験プログラム







#### 多忙な時代の旅

わたしたちは多忙な時代を生きています。日々の生活や仕事に懸命に打ち込む姿勢は、社会を 豊かにしてきました。しかし、皮肉にもこの「忙しさ」が、休暇や海外旅行にまで及んでいます。 通常のスペインツアーでは 10 日程のスケジュールで 7 から 8 ヶ所の観光地を巡ります。一見、 多様な旅行を楽しんだかに見えます。でも、実のところ、経験したのは長い移動距離とそれに要 した時間だけ。次々と写真撮影をしては次の目的地に向かう旅程でいかほどの有意義な旅の見聞 を体得できるのでしょうか?これでは訪問先の本当の姿や、そこに潜む奥深い文化背景を感じる ことはできません。

私達は多忙な海外旅行の反省から、真に満足できる旅行プログラムを企画しました。 (UNESCO (ユネスコ)) 世界文化遺産都市セゴビア市と神戸外大モンセラット・サンス教授が デザインした、その土地を深く味わい、地元の人々との交流を含めた文化教育的な旅です。

セゴビアはスペインの文化的中心地:カスティーリャ・イ・レオン州の心です。首都マドリー ドからほど近く、時間の流れがゆったりした中世の街にいるような、落ち着いた城下町です。更 には自然をあるがままに感じられる場所、歴史的遺跡、芸術作品、スペインの文化背景とその心 を理解できる名所が数多くあります。

セゴビアに着いたら、住むがごとく滞在してください。わたしたちは地元の生活を心ゆくまで 楽しめるワークショップを企画しています。スペイン伝統料理の教室、ワインの試飲会、工芸品、 伝統楽器と音楽、歴史、文学などのたくさんの"地元"を楽しむ教室が用意されています。

みなさまをゆっくり腰の据えられる旅にご招待します。スペインの友人をつくり、スペインの 街角にあなたの訪問の証を刻む、そんな旅はいかがでしょうか?

Orto Group (www.orto-group.jp)







#### セゴビアってどんな街?

## Segov1a

セゴビアを知ろう!



マドリードから北西へ約 90km (電車で約 2 時間) ほどに位置する中世ヨーロッパの古都セゴビア。歴 史は古く、街には古城や城壁が今も残っています。 セゴビア旧市街と水道橋の観光名所が世界遺産に 登録されており、マドリードからの日帰り観光地と しても人気。

面積		163.59 km <sup>2</sup>	人口	約 56,000 人
平均気	温	夏 (8月):2	8度 名	冬 (1月):8度

#### 



紀元前 1 世紀前後、15km 以上遠く離れたアセベダ 川の水をセゴビアまで引くために建設された。全長 728m、高さは約 29m でスペインの水道橋としては 最大規模。接着剤を一切使わず、石を積み上げ2段 のアーチを築いている。アーチの数は合計 166 個。 1884年まで実際に使われていました。

#### アルカサル →

ディズニー映画「白雪姫」の城のモデルになったと いわれている美しい城。歴代の王の居城であり、軍 事拠点でもありました。イザベル・ラ・カトリカの即位 式や、フェリペ2世の結婚式もここで行われました。



16 世紀から 18 世紀に造られたセゴビアのカテドラルは、 その優雅な姿からカテドラルの「貴婦人」と称され、スペ イン最後のゴシック建築を見ることができます。付属の美 術館には、絵画や彫刻が数多く展示されています。



#### 子豚の丸焼き →

セゴビア名物、Cochinillo Asado (子豚の丸焼き)。生後 2 ~3週間の子豚をオーブンで焼き上げるため、皮はパリッと、 肉はジューシー。セゴビアに訪れたら必ず食べたい一皿。



#### 留学生活をのぞいてみよう

## España

## プログラム体験記

「セゴビアは小さくて可愛らしい街です。人々は親切で、旅行者の わたしにも優しくいろいろ教えてくれました。買物中に、買物袋が 有料だとか、その日の着ている物を褒めてくれたり。」

(島田様 女性 67歳)

「ツアー旅行と違い、街を味わい尽くせる旅でした。ホームステイ 先の家庭料理も美味しく味わいました。こうした街を深く体験でき る旅は、自分ではもちろん他の旅行プログラムでも計画できないで す。わたしは地元での文化交流で、日本文化の紹介として尺八を 演奏しました。居合わせた中学生たちは楽しんで聴いてくれました。 たどたどしいスペイン語で彼らと交流ができ、いい思い出になりま した。」

(鹿野様 男性 70歳)









市内観光の他に、桜の植樹(参加者の名前を刻んだプレート付)や 現地の学校で折り紙教室を開催しました。

#### <mark>プログラム Plan de viaje</mark>

151 10

BB

155.55

四部

图制

HI H

2 3

BER

THE RE

H

#### <2.3週間プログラムの内容例>

- ・ホームステイ料金 (期間中の朝昼夕食がつきます)
- ・空港マドリードから現地セゴビアまでの送迎
- ・2回のスペイン料理ワークショップ
- ・1回のスペイン伝統楽器ワークショップ
- ・世界遺産都市セゴビア観光 (ガイド付) ※大聖堂・アルカサル城入場含む
- ・サン・アントニオレアル修道院見学
- ・サンイルデフォンソ王宮見学 王宮・庭園・王立ガラス工場・レストランでの昼食
- ・ペドラサ市小旅行と牧場訪問
- ・アビラ市小旅行(見学施設の入場料と昼食)
- ・トレド市小旅行 (市内観光と大聖堂・シナゴクーユダヤ教会入場と昼食)
- ・マドリード小旅行 (プラド美術館ガイド付・昼食・フラメンコ観劇)

2週間プログラム:309,000円

3週間プログラム:399,000円

#### 文化交流プログラムは下記4つのパートに分けられます。

語学のクラス

IB

宿泊プログラム

ワークショップ

旅行

ワークショップ:スペイン料理教室、伝統舞踏・楽器体験教室、陶芸教室など 旅行: セゴビア観光、近郊都市観光、マドリード観光

#### くご希望に応じプログラムを設計します>

平均的なプログラムは3週間ですが、参加者の希望の期間(例え ば1週間や2週間)に設計し直すことが可能です。また3週間の プログラムに続いて他のプログラムに参加したり、プログラムの 一部を追加・変更することも可能です。ご希望に応じプログラム を設計していきます。是非ご相談ください。

Macassaccaacasaasaaaaaaaaaa

スペイン留学. j pでは、ご希望に合った学校選びや、プランの作成など 幅広くお手伝いしております。漠然とイメージされている留学プランや、 目的・期間・ご予算など、まずは、お気軽にご相談下さい。

#### 【お問合せはこちら】

スペイン留学.jp

URL: www.spainryugaku.jp

TEL: 06-6346-5554

E-mail: info@spainryugaku.jp



https://www.facebook.com/spainryugaku.jp 「いいね!」をクリックして今すぐスペイン留学の最新情報を入手しよう!







## スペイン語を生きよう スペイン ラテンアメリカ









年間3万5千人・85ヶ国からの留学生が受講中(ア ジアからの留学生は10%以下)。

スペイン・メキシコ・コスタリカ・エクアドル・ラテンアメリカ諸国計32都市の校舎にて受講頂けます。

多彩なスペイン語コースから、あなたのニーズに あったコースをチョイス。

徹底した少人数制(最大8名・平均4名)。

現地日本人スタッフのきめ細やかなサポート。



ヘッドオフィス Tel.: +34 91 594 37 76

keiji.tanimura@donquijote.org

アリカンテ/バルセロナ/グラナダ/マドリッド/マラガ/マルベーリャ/サラマンカ/セビリア/テネリフェ/バレンシア(スペイン) アルゼンチン/ボリビア/チリ/コロンビア/コスタリカ/キューバ/ドミニカ共和国/エクアドル/グァテマラ/メキシコ/ペルー(ラテンアメリカ)







egovia, ciudad Patrimonio de la Humanidad, es sinónimo de Acueducto. El Acueducto romano del siglo I d. C. es también símbolo de identidad y emblema de la ciudad, además de razón suficiente para una parada por parte de todo viajero.

En Segovia el patrimonio monumental y natural rivalizan en belleza. Inolvidable para los ojos curiosos del turista es el perfil del Alcázar y la Catedral desde los valles que rodean la ciudad medieval, rodeada por la muralla más larga de España. El caserío alberga innumerables edificios históricos y obras de arte, testimonio de un rico legado fruto de la coexistencia de cristianos, judíos y musulmanes, que la ciudad ha sabido conservar.

No en vano Segovia fue la ciudad en la que los reyes de España establecieron su residencia desde el siglo XIII hasta el siglo XVI. Bien podría decirse que Segovia es la Kioto española.

El visitante encontrará a cada paso por las calles de Segovia una excusa para detener la mirada y un buen restaurante en el que degustar la rica gastronomía local e internacional. 世界遺産の町、セゴビアと言えば水道橋(アクエドゥクト)、と言えるほど、この紀元1世紀に造られたローマ水道橋はこの町の象徴であり、町の紋章のシンボルにもなっていて、さらには旅行者がこの水道橋を見るためにこの町を訪れるのです。

セゴビアでは、歴史的遺産と自然の遺産がその美しさを競いあっています。スペインで最も長い城壁で囲まれた中世の町を取り巻く渓谷から見るアルカサル城や大聖堂の外観は、好奇心旺盛な旅行者の目には忘れ得ぬ風景として映ります。小さな集落には、沢山の歴史的な建造物や美術作品がありますが、それらはキリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒が共存していた結果、残された豊かな文化財であることの証であり、この町はそれらを守り続けてきました。

このようなセゴビアに、13世紀から16世紀に至るまでスペインの数々の王がその宮殿を構えたのもうなずける話であり、まさにセゴビアはスペインの京都とも言えるのではないでしょうか。

セゴビアを旅すれば、通りを歩く先々で立ち止まって見ずにはいられない場所や、地元の、そして国際的な料理を堪能できるレストランに出会うことでしょう。



#### CÓMO LLEGAR (セゴビアへの行き方)

Desde Madrid (a 87 km) マドリードから87km Aeropuerto de Barajas a 109 km マドリードのパラハス空港から109km

- 員 Tren: 28 min. desde la estación de Chamartín 電車で:チャマルティン駅から28分
- ♣ Coche: 60 min. (aprox.) por la Autopista AP-6 / AP-61 車で:高速道路AP-6とAP-61を使って約60分
- 📟 Autobús: 60 min. (aprox.) desde la estación de Moncloa バスで: モンクロア駅から約60分



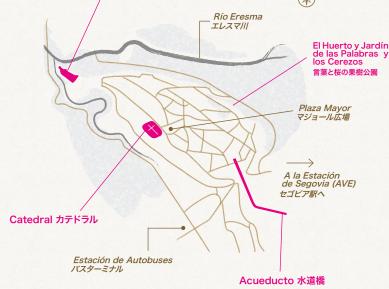




#### 1. Catedral (カテドラル)

Es conocida como la dama de las catedrales, al ser ésta uno de los más bellos ejemplos de arquitectura gótica tardía.

『大聖堂の貴婦人』として知られ、後期ゴシック 様式の建築としては最も美しい建物のひとつです。



Alcázar アルカサル



#### ## 2. Alcázar (アルカサル)

Edificado en el siglo XI sobre los restos de una fortaleza romana, se erige entre los valles de los ríos Eresma y Clamores. Con su aspecto de castillo de cuento de hadas se ha convertido en uno de los monumentos más visitados de España y fue inspiración para Walt Disney a la hora de diseñar el castillo de Blanca Nieves.

11世紀に建てられた城で、エレスマ川とクラモーレス川の間の渓谷を選んで建造されたローマ時代の要塞の遺跡上に建立されました。この、おとぎ話に出てくるような城は、今ではスペインでもっとも訪れる人の多い歴史的建築物となっています。また、ウォルト・ディズニーはこの城にインスピレーションを得て白雪姫の城をデザインしました。



3. El Huerto y Jardín de las Palabras y los Cerezos (言葉と桜の果樹公園)

Con este hermoso nombre se designa un rincón enigmático de la ciudad de Segovia, donde las palabras y los árboles hablan por igual. Inicialmente conocido como Jardín de Miguel Delibes, este espacio acoge cerezos japoneses y palabras grabadas en piedra. Los conceptos elegidos definen y simbolizan los pilares de la unidad de todos los pueblos de la tierra entre sí, del ser humano con la naturaleza y de nuestra generación con las que nos sucederán eternamente. El nombre del jardín y la reflexión a la que se invita al final ("Recuerdo y Camino"), ambos propuestos por el profesor Marciano Cuesta, sirven para enmarcar estos conceptos universales, escritos también en el lenguaje pictórico de los kanjis japoneses.

この美しい名前で、「セゴビアでは木々もまた、 言葉のように語りかけてくる」という、この町の神 秘的な一面が表されています。もともとはミゲル・ デリベスの庭園として知られていましたが、この 場所に日本の桜の木が植えられ、言葉が刻まれ た石板の数々が据え付けられました。そこで選ば れたコンセプトによる言葉は、この地に住む全て の人々の調和と、自然と共に生きる人間であるこ と、そして私達の世代から未来の世代へと永遠 に引き継がれていく、その礎となるものをはっき りと示し、象徴しています。マルシアノ・クエスタ教 授はこの公園に『言葉と桜の果樹公園』という名 前をつけ、さらに『最後に深く思いを巡らせる場所 ("思い出と道程")』という意味を添えました。こ の2つの発案は、言葉に込められた普遍的なコン セプトを際立たせ、石板にも日本の漢字の筆文 字で刻まれています。









#### 4. Acueducto (水道橋)

Uno de los más importantes del mundo romano con un recorrido de 14.956 metros desde la captación de agua en la Sierra de Guadarrama. 20.400 bloques de piedra unidos por un equilibrio de fuerzas, que en la zona más alta llega a 29 metros, se encuentran en un admirable estado de conservación.

ローマ時代の遺跡の中でも最も重要な遺跡の1つで、その長さはグアダラマ山脈を水源とする取水地点から全長14,956メートルに及びます。また、20,400個もの石のブロックは高さ29メートルに達する場所までそれぞれが絶妙なバランスで支え合って積み上げられており、その保存状態は驚くべきものであることがわかります。

#### 5. Gastronomía (グルメ)

Ciudad de mesones y figones por antonomasia, Segovia es uno de los más firmes baluartes de la cocina castellana. De hecho, a sus artes gastronómicas debe gran parte de su atractivo turístico.

Sin desdeñar las innovaciones de la nueva cocina, que también aquí ha encontrado su particular reflejo, los argumentos máximos de las mesas segovianas siguen siendo los asados de cordero lechal y cochinillo o tostón en horno de leña. En repostería es célebre su ponche, un bizcocho relleno de crema con cobertura de mazapán.

メソンと言われる食堂や、フィゴンという大 衆食堂が多くあることで、セゴビアは言わずと 知れたカステリャーノ料理を守る強力な砦の ひとつである町であり、事実、ここの芸術的と も言える料理の数々は観光の魅力の大部分 を占めています。

革新的で新しい料理も無視できないけれど、この町固有の個性きらめく料理に目を向けてみると、今でもセゴビアの食卓に最も多く並ぶのは薪オーブンで焼き上げた、子羊やコチニージョまたはトストンと呼ばれる子豚の丸焼きです。そしてスイーツは、柔らかいスポンジ生地でカスタードクリームをはさみ、マサパンと言われるアーモンドプードルと砂糖や卵白を加えて練ったものを薄くコーティングした、ポンチェという有名なケーキがあります。





Centro de Recepción de Visitantes Azoguejo, 1 - Segovia Tel: +0034 921 466 720 info@turismodesegovia.com segovia.turismodesegovia.com





Centro de Lenguas e Intercambio Cultural



## "Un primer día en Sevilla" セビリア滞在初日

Por fin, llego al aeropuerto de Sevilla. Allí me espera un responsable de CLIC para acompañarme a mi familia. Mientras recorro en coche las calles de la ciudad, me quedo impresionado por el ambiente y el bullicio del centro ("No cabe ni un alfiler"). El coche se detiene, en la puerta de una hermosa casa sevillana y aparece una amable señora y el que parece su marido que me ayuda con el pesado equipaje ("¿Qué llevas dentro, un muerto?"). He oído algo parecido a muerte pero imagino que es un problema mío porque el señor me mira con cara sonriente.

Tras acomodarme en mi habitación, ya me estaban ofreciendo de comer. "¿Has comido? Tómate una tapita de tortilla, que está recién hecha", me dice la señora poniéndome el plato delante de mis ojos. Estaba riquísimo (Para chuparse los dedos). Decidí dar un paseo por el centro con mi cámara de fotos y mi plano, pero me perdí nada más salir de casa. De pronto, salí al barrio de Santa Cruz, y contemplé atónito (¡Me quedé con la boca abierta!) la Giralda, la hermosa torre árabe que corona la tercera catedral más grande de Occidente y, probablemente, la más hermosa. Miré alrededor y seguí con la mirada estupefacta: a mi espalda, el barrio de Santa Cruz, lleno de bares para tapear y degustar la comida sevillana; de frente, La Giralda y la catedral; a mi izquierda, los Reales Alcázares de Sevilla y, entre la catedral y los Reales Alcázares, el Archivo de Indias (¡Quien no ha visto Sevilla, no ha visto maravilla!).

ついにセビリア空港に到着。CLICのスタッフに出迎えられ、ホストファミリーまで移動。車中から見た、街の雰囲気や、 市街地の人でごった返している様子("No cabe ni un alfiler")に圧倒される。車が停車し、セビリアの素敵な家の扉から親切な女性が現れ、そのご主人らしき男性が"¿Qué llevas dentro, un muerto?"と言いつつ重い荷物運びを手伝ってくれる。Muerte"死"に似たような単語を聞いた気がするが、ご主人はニコニコしている。きっと気のせいだろう。

部屋で一段落したら、早速食事を勧められた。「食事はしたの?出来立てのトルティージャのタパス はいかが?」と目の前にホストマザーが置いてくれた。最高に美味しかった(Para chuparse los dedos)。カメラと地図片手に市街地を散策することにしたが、家を出て直ぐに迷ってしまった。突然、サンタクルス街に出て、西洋で第3の規模を誇り、おそらく最も美しいカテドラル(大聖堂)を象徴するアラブの塔、ヒラルダを見て、唖然とする(¡Me quedé con la boca abierta!)。周囲の光景に引き続き言葉を失う。後にはタパスやセビリアの料理をつまめるバルが密集するサンタクルス街、正面にはヒラルダの塔とカテドラル、左手にはアルカサール王宮、そしてカテドラルとアルカサールの間にはインディアス総合古文書館がある。セビリアはなんと美しい街なんだろう(¡Quien no ha visto Sevilla, no ha visto maravilla!)。

## Ejercicio 練習問題

¿Puedes relacionar las expresiones en negrita con sus significados? 1-5の太字の表現に対する意味をa-dから選択して下さい。

- 1. No cabe ni un alfiler
- 2. ¡Qué llevas dentro, un muerto!
- 3. Para chuparse los dedos
- 4. Me quedé con la boca abierta
- 5. ¡Quien no ha visto Sevilla No ha visto maravilla!
- a. Muy sorprendido
- **b.** Muy pesado
- c. Mucha gente
- **d.** Sevilla es la mejor
- e. Comida muy sabrosa

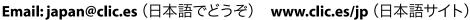


回答:1-c, 2-b, 3-e, 4-a, 5-d



**CLIC International House Sevilla y Cadiz** 

クリック・インターナショナルハウス・セビリア&カディス







#### ¡Vamos a hablar español!

## スペイン語で話そう

#### Lección 4

これは何(色)ですか? ¿Qué es esto? ¿De qué color es?



#### Botijo: 水を入れておくと冷たくなるとても便利な容器。スペインで水を飲むためによく使われている。この容器は小さな穴が無数にあいた粘土で作られており、容器内の水はこの穴を通して外へ染み出し、地中海性の乾燥した空気に触れ蒸発する。その際、熱エネルギーを放出し、中の水を冷却するという仕組み。

#### 物・色の尋ね方:「これは何ですか?」「何色ですか?」

¡Hola! みなさん、こんにちは。 今回は、以前学習したSer動詞を使って「物・色の尋ね方」を学習します。 旅行中、市場などでは見慣れない物も多く売られていますね。そんな時に便利なフレーズ。お店の人に積極的に質問してみましょう!

物の尋ね方・言い方		
¿Qué es esto eso ? これ それ は何ですか? あれ		
Es ~ . ○○です。		
例) ¿Qué es esto? これは何ですか? Es una alcachofa. アーティチョークです。		
色の尋ね方・言い方		
¿De qué color es? लक्ष्टचकः?		
F-		
ES ~ . ○○です。※○○に入る色(形容詞)は、修飾する名詞の性と数に合わせます		

指示代名詞			
	男性	女性	中性
単数形	este	esta	esto
複数形	estos	estas	CSIO
単数形	ese	esa	eso
複数形	esos	esas	630
単数形	aquel	aquella	agualla
複数形	aquellos	aquellas	aquello

# + a で覚えよう! [色] 白 blanco / blanca 緑 verde オレンジ naranja 黒 negro / negra 青 azul 茶 marrón 赤 rojo / roja 灰色 gris 黄 amarillo / amarilla ピンク rosa





#### AVANZAMOS A1

- 日本の学習事情を考慮して作られた 西語で西語を学ぶ入門者向けテキスト
- 個人授業/グループ授業 使用可
- 充実の104P (オールカラー)・CD付
- ¥1,944(税込)

アデランテショップで好評販売中! www.adelanteshop.jp

# 巫

Lección 22

今回のテーマ

#### 母音変化動詞の活用について(1)

Sobre la conjugación de los verbos con cambio vocálico en la raíz l

今回は「母音変化動詞」の活用を扱います。より正確には「語根母 音変化動詞」(verbo con cambio vocálico en la raíz)と言われる のですが、一般の学習者には「母音変化動詞」でよいと考えています。 初心者の授業では、動詞の活用は理由を考えないでひたすら覚えま しょう、と言われることも多いでしょうが、中級レベルに達した段階で 体系的に再確認するのは決して無駄なことではありません。理屈を知 ればなお理解が深まることでしょう。動詞に母音変化が多いのはスペ イン語の大きな特徴なのでしっかりと覚えることが肝心です。

本題に入る前にそもそも母音変化とは何か、なぜ起こるのかについ て考えてみたいと思います。動詞の活用においてその語尾が変化する のは普通ですが、本体の方(語根raíz)の母音が変わることも実はよく あることです。英語や日本語でも見られる現象です。例えば、英語では sing-sang-sungのように"i~a~u"という変化によって「原形~過去 形~現在分詞」を作っています。

日本語にも母音変化動詞があります。中学・高校で習った古文を思 い出してみてください。例えば、「下二段活用」というものがありました。 例えば、「得(う)」は「え-え-う-うる-うれ-えよ」と変化します。順に「未 然形-連用形-終止形-連体形-已然形-命令形」です。日本語や英語の 例はもちろん直接スペイン語とは関係ありませんが、よく似た現象が偶 然起こる例と言えます。

さて、スペイン語の動詞の母音変化は、以下の3つの系列に及び ます。「現在系列(直説法・接続法・命令法)」、「過去系列(直説法 点過去・接続法)」、「現在分詞」の3つです。意外に多いと感じたか もしれません。ただし、すべての動詞がそうではないのです。以下の ように2つのグループに分けることができます。

- (1) -ar型と-er型:「現在系列(直説法・接続法・命令法)」のみ
- (2) -ir型の「現在系列(直説法・接続法・命令法)」、 「過去系列(直説法点過去・接続法)」「現在分詞」

それではまず、より単純な(1)のケースから見ていきましょう。この 最初の母音変化動詞は、「二重母音化」(diptongación)によるも のです。この二重母音化という現象はフランス語やイタリア語でも起 こっているのですが、特にカスティーリャ語に特徴的です。変化パタ ーンは、"e→ie"と"o→ue"の2種類があります。それぞれの例とし て、pensarとcontarを挙げます。

【I型:e → i 】pensar	
直説法	接続法
pienso	piense
piensas	pienses
piensa	piense
pensamos	pensemos
pensáis	penséis
piensan	piensen

【Ⅱ型∶o → ue 】contar	
直説法	接続法
cuento	cuente
cuentas	cuentes
cuenta	cuente
contamos	contemos
contáis	contéis
c <mark>ue</mark> ntan	cuenten

二重母音化の特徴は、強勢がある音節のみに起こることです。つま り、6つの活用形のうちnosotrosとvosotrosでは起こらないのはその ためです。-ar型動詞と-er型動詞では現在形のみで母音変化が起こ

ることは先に述べたとおりです。それでは例文です。

En nuestro país la natalidad desciende sin freno y no sabemos dónde vamos a parar.

わが国では出生率低下はブレーキがかからない。どうなってしまうの かわからない。

Estos datos muestran claramente el reciente aumento del número de turistas extranjeros.

これらのデータから最近の外国人観光客の増加は明らかだ。

僅かながら"e → ie"、"o → ue"に引きずられてこれらと同じ活用 をする動詞があります。初級教科書でも必ず出てくるjugarです。oで はなくuがueと二重母音化します。

jugar: juego, juegas, juega, jugamos, jugáis, juegan

このタイプはこの動詞1つだけしかありません。conjugarはueと二重 母音化しないことに注意が必要です。一方、eの代わりにiがieに変化 する動詞があります。

adquirir: adquiero, adquieres, adquiere, adquirimos, adquirís, adquieren ※元々quererと同語源です。

En esa escuela casi todos los alumnos adquieren la competencia lingüística en euskera.

その学校ではほとんどの生徒がバスク語の言語能力を獲得する。

これらの二重母音化動詞の中には綴りに注意すべきものがありま す。errarでは語頭にあるe-が、"e-→ ve-"となります。つまり、

errar: yerro, yerras, yerra, erramos, erráis, yerran となります。このパターンの動詞はerrarのみです。

El hombre yerra tanto como lucha.

人間は努力する限り過ちを犯すものだ(ゲーテの格言)

一方、変化するoが語頭にある場合は、"o-→hue-"となることに注 意が必要です。olerが代表例です。

oler: huelo, hueles, huele, olemos, oléis, huelen

といった具合に-ue-と二重母音化が起こった形のみその前にh-を付 けます。これはなぜでしょうか、それは中世のスペイン語では、UとVの 使い分けがまだはっきりとしていなかったことに由来します。現代語の 様にUは母音、Vは子音とはっきりと使い分けていませんでした。例え ば、ueとveはどちらも「ゥエ」とも「ベ」とも読めます。そこで二重母音の 前には発音しないh-を付けることにしました。これでhueloはolerの 活用形、veloは「ベール、被り物」を表す名詞と区別できます。名詞の huevoにh-が付いているのも全く同じ理由です(形容詞形のovalは 付かない)。

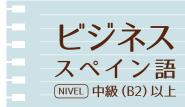
現在形と活用形が近いものに「命令法」があります。直説法現在と 非常に似ていてtúに対する命令形ではやはり二重母音化型の母音 変化が起こります。 pensar → tú piensa contar → tú cuenta

-ir型動詞の母音変化については次号で扱います。¡Hasta la vista!



#### 仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。京都イスパニア学研究会長。専門はスペイン語学。著書に「はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習ー』(共著、同学社)などがある。



#### Vol.3

企業が生成発展を遂げ、営々として事業活動を継続するには適正な 利益の確保が不可欠です。上場企業は四半期毎に連結決算の公表 が義務づけられています。そこで今号では利益(純利益)がどのような 表現で発表されるのか例文を通して学びます。





#### ☑ 利益について

「利益」、「収益」、「儲け」に該当するさまざまな用語があることに注目しましょう。

#### ejemplo 1

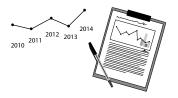
Ayer el conglomerado Bolos presentó los resultados de 2014, con un beneficio récord de 2.950 millones de euros, un 40,3% más que el año anterior.

「昨日コングロマリット(企業集団、複合企業体)Bolosは2014年度業績を発表し、利益は前年の40.3% 増で過去最高の29億5千万ユーロとなった。」

#### ejemplo 2

<u>La mayor compañía TOP del ramo textil del país</u> reportó <u>una ganancia neta</u> de 2,302 millones de dólares en 2014, <u>frente a</u> 1,862 millones <u>que obtuvo en el año pasado</u>, <u>lo que supone un 23.6% más</u>.

「国内繊維部門最大手のTOP社は、2014年度純利益を23億2百万ドルと公表し、昨年度実績18億6千2百万ドルと比べ、23.6%の伸びとなった。」



#### ejemplo 3

En 2014 la compañía PAZ obtuvo <u>una utilidad consolidada</u> de 2,300 millones de pesos, <u>una cifra superior a</u> los 2,010 millones del año anterior.

「PAZ社の2014年度<u>連結利益</u>は23億ペソで, 前年の20億1千万ペソを<u>上回った</u>。」

#### ejemplo 4

El Grupo Mega ganó 1.658 millones de euros en 2014 <u>tras registrar unas pérdidas de</u> 950 millones en 2013 <u>por su reestructuración operativa</u>.

「Megaグループの2014年度<u>利益は</u>、2013年度の<u>事業再構築による</u>9億5千万ユーロの<u>赤字計上から一</u>転して16億5千8百万ユーロの黒字となった。」

#### ejemplo 5

Maxb ha logrado un beneficio neto de 1,413 millones de dólares <u>al cierre de los</u> seis primeros meses del actual ejercicio fiscal, lo que representa <u>un alza</u> del 20.5% <u>respecto al mismo período del ejercicio anterior</u>.

「Maxb社は<u>今事業年度上期決算で</u>純益14億1千3百万ドルと<u>前年同期比</u>20.5%の<u>増益</u>を達成した。」

以上、増益中心の表現を見てきました。売上高と同様利益に関しても大きな桁の数字を例文に組み入れていますが、読み方、桁の取り方を理解できたでしょうか?例文をよく音読して下さい。次回は減益、赤字利益のケースを学びます。

#### ejemplo 1

1. un beneficio récord: 過去最高の利益、最高益 「利益」はbeneficioの他に ganancia, utilidadがある。 また、「収益性」はrentabilidad、「利回り」はrendimiento、 「儲け」は lucro。

- 2. 「儲かる、収益がよい」 rentable, lucrativo: Es un negocio rentable / redondo / lucrativo. それは儲かるビジネス(商売)だ(いい儲け口だ)。
- 3. 利息収入や株などの売買で得た資本利得(キャピタルゲイン): ganancias de capital, plusvalías

#### eiemplo 2

1. ramo: 分野、部門、業界、業種; 同義語-sector, giro, gama, campo, área, ámbito

2. 「純利益、純益」:ganancia neta, beneficio neto, utilidad neta, 「粗利・荒利」:ganancia bruta, beneficio bruto, utilidad bruta, margen bruto

3. 「利幅、値差、マージン、マークアップ」: margen de ganancia

4. frente a: ~と比較し 同義語: respecto a, sobre, contra など

5. lo que supone: ~を示す、表す

#### ejemplo 3

1.「連結」とは親会社の会計に連結対象となる子会社や関連 会社の会計を合算した決算を言う。これによって投資家はその 企業グループ全体の事業内容や財務内容を知ることができる。 「連結売上」: la cifra de negocios consolidada, las ventas consolidadas, la facturación consolidada

2. una cifra superior a: 直訳すれば「〜を上回る数字」となるが、すぐ後に具体的な数字が出ているので、「上回った」と表現する方がすっきりし分かり易い。

#### ejemplo 4

1. ganó: 「利益を上げた、儲けた」という意味ですが、ここでは文脈から「...利益は...黒字となった」と訳します。それは、tras registrar unas pérdidas de 「~の赤字計上の後に」一転して黒字となったことが重要情報だからです。

2. reestructuración operativa: 事業再構築とは、リストラ (人員削減)、事業分野・規模・組織の見直し、新規事業 への参入、等の経営改革を意味します。

#### ejemplo 5

1. al cierre de: 「~の終わりに、締めで」という意味ですが、分かり易く「決算で」と訳します。Los seis primeros meses = el primer semestre(上期/上半期)のこと。

el actual ejercicio fiscal: 本(今)事業年度、今期。"el año fiscal"も事業年度、会計年度。

2. un alza: 「上昇、アップ」のことですが、ここでは「増益」を表します。

もっと詳しく 知りたい方は...

#### 中級ビジネス スペイン語特別講座

#### 【対象者】

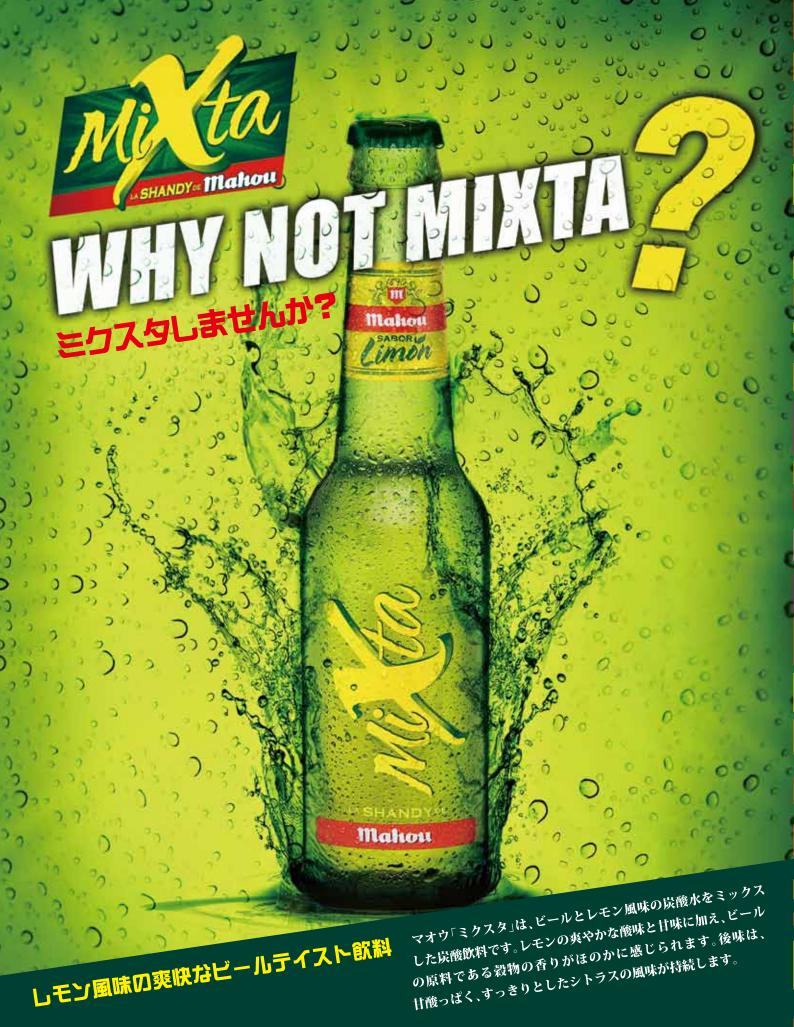
「現役のビジネスパーソンでビジネススペイン語力を高めたい方、 将来スペイン語を使った仕事に就く予定・計画のある方、 スペイン語のステップアップとして実践的なスペイン語学習を求める方

#### 【講座内容

ビジネス関連情報の読み取り方、顧客への自社業務・担当業務の説明、 E-mailによる社内外とのコミュニケーション等 【講座概要】 計6講座(各90分) 定員:4~5名の少数クラス (最小実施人数3名)

講師: 伊藤嘉太郎 場所: スペイン語教室ADELANTE アクセス: JR大阪桜橋口から徒歩5分





※この商品は、アルコール0.9%を含みます。20歳以上の方を想定して開発した商品ですので、お子様の飲用はご遠慮ください。

http://www.liquorlandjp.com 株式会社キムラ

知れば知るほどスペインが好きになる!

**SPAIN FAIR** in Nishinomiya City Frente Hall

スペインフェア 2015

2015.11.14(sat)

時間:12:00~19:30 (11:30 OPEN)

会場: 西宮市フレンテホール

JR西宮駅南出口から徒歩1分/阪神西宮駅 市役所口から徒歩15分

Siente España en Japón! 今年で5年目を迎えるスペインフェア 当日は楽しいイベントが盛りだくさん!

- ◆ フラメンコショー
- ◆ 子供向け絵本の読み聞かせ
- ◆ スペインギターショー ◆ スペインに関する各講演会
- ◆ サンティアゴ巡礼写真展 ◆ スペイン雑貨・書籍の販売
  - ◆ スペインタイルのワークショップ



スペイン留学 無料カウンセリングも

随時実施!

Enforex don Quijote

※スケジュール・イベント内容は予告なく変更する場合 があります。予めご了承下さい。 問合せ先: 有限会社ADELANTE

TEL: 06-6346-5554 HP: www.spainfair.ip

A see mos--- 1993















🕠 公益財団法人 西宮市国際交流協会

## ピアニスト・下山静香の

# 音楽の時間



「バレエ・リュス」とスペイン その3

時は1918年。興行を終えたリスボンでしばらく足止めを食っていたバレエ・リュスが、再びスペインへと戻ってきたのは、3月も末のことである。

苦しい経済状況にはあったものの、団員たちにとってスペインでの暮らしは快適だった。中立国スペインでは戦争の気配から少しは離れていられる、ということも大きかったが、特にロシア出身の団員たちにとっては、ロシアとスペインにみられる親近性がポジティヴに作用していたのではないかと思われる。ロシアではもともと、ロシアとスペインの文化はどこか共通したものがあるという考えが広まっていて、スペインに親近感を覚えるロシア人が少なからずいたようである。そんな背景もあってか、このラテン=スラヴ文化信仰を新しい芸術作品に昇華させ、ヨーロッパに根強いドイツ文化崇拝に対抗したいという思いが、ディアギレフのなかに生まれていた。

さかのぼること2年前、ディアギレフは、スペインを代表する作曲家マヌエル・デ・ファリャにコラボレーションをもちかけていた。このときディアギレフがバレエ化を提案した曲は、《スペインの庭の夜 ピアノとオーケストラのための交響的印象》だったが、オーケストラの扱いがデリケートなこの作品でバレエを制作するのは難しいのではないか、と思ったファリャは申し出を断っている。

その後連れだって訪れたアンダルシアがすっかり気に入ったディアギレフは、この地を舞台にしたバレエをつくりたいと考えた。原作候補として、民間に伝わる話をアラルコンが小説化した『代官と水車小屋の女房』が挙がった。ディアギレフとの話し合いはその後中断されたが、ファリャはこの物語を題材として、室内オーケストラとパントマイムのための作品(台本:マルティネス・シエラ)を書き、1917年4月にマドリードで初演を行っている。しかし舞台作品としてはいくつか欠点もあり、ファリャは、もっと本格的で幅の広い作品にしたいと考えていた。そして、これをバレエ・リュス用に改作することにしたのである。タイトルも、原題の《三角帽子》に改めた。





マヌエル・デ・ファリャ

スペインを題材にしたバレエを制作するなら、踊り手は"本物"のスペイン舞踊を習得する必要がある。ディアギレフは団員たちに、スペインの踊りをよく観察し、そのエッセンスを吸収するよう求め、振付家でもあるレオニード・マシーンは、スペイン舞踊のステップの研究に時間を費やした。当時のスペインは、伝統的な民俗舞踊が盛んなことではヨーロッパ随一と言ってよかった(これは今もあまりかわっていないだろう)。カフェ、居酒屋、ダンスホールなどに行けば、スペイン舞踊に触れる機会には事欠かなかったし、師匠が弟子にテクニックを伝授する舞踊学校も発達していた。バレエ・リュスにとってスペインは、芸術上のあらたな収穫の場となったのだ。

この新作に熱中していたディアギレフではあったが、一方で、冷静なプロデューサーとしての彼は、 巡業がバルセロナで終了したあとのことを気にかけていた。そして、ロンドンの劇場ならば望みがある とみて、さっそく交渉を始め、コロシアムで数カ月間の公演を打つ契約にこぎつけた。先行きに不安 を感じていた団員たちが、その報を聞いて大いに喜んだのは言うまでもない。

全公演が満席となったバルセロナでのシーズンを無事に終え、イギリスに出発する準備が整った ところで、問題が生じた。ドイツのUボートに攻撃されるリスクを避けてイギリスに渡るには、フランス を通っていかなければならないのだが、フランス当局が通過ビザを交付しないと通達してきたので ある。ロシアはこの年の3月、大幅な領土的譲歩のうえドイツと単独講和を結び、大戦から離脱して おり、それに腹を立てたクレマンソーが「ロシア人にはフランスの国土を踏ませない」と決めたのだっ た。このときも、窮地を救ったのはスペイン国王 ―― バレエ・リュスとディアギレフがスペインにやっ て来てから、常に心強い後援者でいてくれたアルフォンソ13世だった。国王がパリのスペイン大使を 通じて便宜を図ってくれたおかげで、3週間遅れでビザが交付され、団員たちは無事ロンドンへと出 発することができた。

コロシアムでのシーズン開幕は9月。コロシアムは、劇場というより大衆的なミュージックホールだ ったのだが、話題のバレエ・リュスが生み出す新しい芸術が観られるとあって、ニュータイプの知識人 やブルジョワ、前衛を好む人々が興味津々で押し寄せた。初日のソワレにはマシーン振付による《上 機嫌なご婦人たち》を上演。初めてマシーンの作品に接するロンドンの観客の反応を注視していたデ ィアギレフは、公演の大成功をみて自信を深めた。また、ロンドンの観客は、ピカソがバレエ・リュスの 仕事をしていることを歓迎していると知り、ピカソとの関係をさらに強化するべく動き始める。

11月11日、4年にわたり続いた第1次大戦が終結した。街中が歓喜にわくなか、ディアギレフは、ピ カソとのコラボ作品である《パラード》のロンドン初演と《三角帽子》初演の準備に余念なく、新しい 年を迎える。

さて、《三角帽子》の成立に欠かせなかった人物がもう1人いる。セビリャ出身の天才的な踊り手、 フェリックス・フェルナンデス・ガルシアである。彼は複雑なサパテアードを記録する方法を編み出し ていたし、唄いながら踊ることもできた。その素晴らしい踊りを見たディアギレフは、さっそく彼を雇い 入れた。マシーンにスペイン舞踊を伝授してもらい、本人も出演させようと考えたのである。ロンドン に同行したガルシアは、マシーンにフラメンコ舞踊やカンテ・ホンドの真髄を教えた。おかげで、マシ ーンは目覚ましい上達をみせるが、ガルシアにとってロンドン行きはあだとなってしまった。彼はもとも と即興を得意とする踊り手であり、決まった振付で踊ることを強いられる状況には順応できなかった のである。ガルシアの精神状態は不安定になり、ストレスが高じてついに神経衰弱を発症、舞台への 出演もとうてい不可能となった。彼が迎えた末路は、異国の地で精神病院に入れられたまま生涯を 終える、という悲しいものだった。この運命は、かつてバレエ・リュスの花形だったニジンスキーを思 い起こさせる。ディアギレフという強烈な個性が、図らずも呼びよせてしまった悲劇なのだろうか…。

ガルシアを失い、深いショックを受けたディアギレフだったが、何があろうと公演は成功させなくて はならない。準備は着々と進み、2人のスペイン人芸術家、ファリャとピカソが参加したバレエ《三角 帽子》は、いよいよ初演を迎えるのである。「続く]

文•写真提供 下山静香



## 下山静香 しもやましずか / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。文化庁派遣芸術家在外研修員としてスペインへ渡り、マドリード、バルセ ロナで研鑽。スペイン各地に招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞 される。ラジオ、テレビ番組に多数出演、これまでに5枚のCDをリリース。共編著書1冊、共著 7冊、翻訳書1冊、校訂楽譜2冊がある。現在、スペイン・中南米音楽を含む多彩なレパートリ -をもつピアニストとして活発な演奏活動を展開。またクラシック界にあって、翻訳・執筆・講 演・舞踊とマルチにこなすユニークな存在として注目を浴びている。桐朋学園大学、東京大 学 各非常勤講師。

Official Web Site http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf 裸足のピアニスト・下山静香のプログ http://ameblo.jp/shizukamusica

## **I**Información

9月13日 下山静香ピアノコンサート 前橋まちなか音楽館

10月2日 G-Callサロン 下山静香リサイタル

<ベーゼンドルファーで奏でるウィーンの響き>(東京・五反田)

10月17日 朝日カルチャーセンター湘南教室 「下山静香・音楽でめぐるスペインの祭り 秋冬編」 10月30日 下山静香PIANOライブ <ラテンアメリカに魅せられて>vol.7 雑司が谷音楽堂

11月14日 下山静香リサイタル ハウスゾンネンシャイン音楽堂(富士市)

11月21日 モーツァルティアンフェライン例会<下山静香リサイタル> カーサ・モーツァルト(東京・原宿)

12月5日 <下山静香が贈る♪ 音楽×美術~パリの夢(仮)> 杉並公会堂小ホール

## 日西商業会議所 Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介いたします。

# サイタ、革新的で高品質のエキストラ・ バージン・オリーブオイルのシンボルを 目指す

〜 レス一家のプロジェクトは 2000年母方の郷里であるバダホスのサイタ農場を購入した事から始まる。農場は30ヘクタールで、その中には樹齢200年のオリーブの木もある。

2年後にはオイルをバルク販売し始める。この時期の経験によりこの 農園に対する理解を深め、しかも製造の全工程の知識と経験を得る事に なる。そのおかげで、消費者に常に高品質オリーブオイルを提供出来た。 今日ではエキストラ・バージン・オリーブオイルの公的品質保証認定

> マークSMOIL が付くメーカーとなる。また、環境 問題にも細心の注意を払っている。

> 現在サイタは35万Kgのオリーブをから5万Kgのオリーブオイルを生産している。収穫してからオリーブオイルになるまでは48時間。オリーブの官能検査上の評価を落とさずに品質を保とうとする為、収穫してから粉砕までは長くても4時間。欠点の無いエキストラ・バージン・オリーブオイルやオリーブの純粋な果汁を取り出す為には、作業はそれぞれの工程で完璧さが求められる。その上、毎日化学的・感覚特性検査を行い品質のコントロールを徹底している。

その後、品質・イノベーション・消費者教育

という3本の柱を軸としたサイタというブランドを確立した。現在は様々なタイプのエキストラ・バージン・オリーブオイルを選んで頂ける。新しい商品ではオリーブオイルで作ったチョコレート、またチョコレートで作ったおちょこの様なものにオリーブオイルを注ぎテイスティングするキットもある。これは味と触感のコントラストが面白い。

スペインにおいて市場の拡大は急速にすすんでいる。今後、同様の展開を海外でも広げようとしている。例えば日本。要求の高い日本人消費者はサイタの商品の価値を理解してくれると確信していて、その証拠に、数週間前バルセロナを訪れた日本人観光客のグループが、1,2の評価を争うグルメ専門店のショーウインドーに並ぶ商品を見て、店内のサイタ商品を全て購入していったようだ。 www.lasahita.com





1985 年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5





お問い合わせ先

日西商業会議所 /



Cámara de Comercio Hispano Japonesa www.camarajaponesa.es/jpn

1937年3月、キャパとタローの間に秋風が立つとは言わないまでも少し軋みが生じたようである。このような場合、男の方が積極的な手を打つものなのだ。キャパも同様で、タローにプロポーズする。それをタローはにべもなく拒否する。何故だろうか。タローは、今までのように、自分が創り上げた天才戦場カメラマン「ロバート・キャパ」の黒子、あるいは助手に徹することが出来なくなっていたのだ。最初は、タローが撮った写真はすべてひとまとめにしてキャパひとりのクレジットで発表されていたが、2月頃には2人で共同でした仕事には「ルポルタージュキャパ&タロー」というスタンプが用意されていた。それでもキャパの名前がいわばファースト・オーサーであった。3月になり、彼女ひとりで撮った写真には「フォートタロー」というスタンプが押されたのだった。その頃、彼女は、『スー・スワール』や『ルガール』などに定期的に、この名称で作品を発表するようになった。



こうした自分の仕事に目覚めたタローの行動は、毎日新聞パリ支局から借り出した、ファインダーに目を接して撮る最新式のライカをも持つキャパに対して、戦場という危険な場所で胸から腰に掛けての位置に構えてファインダーを見下ろすようにして撮るローラフレックスしか持ち合わせていないタローの、不退転の挑戦であろうか。

そうはいっても、3月末に2人は、マドリードに入り、ホテル・フロリダにチェックインする。そのホテルは、グラン・ビア通りの中央電話局の近くだったために、外国人ジャーナリストたちがよく屯するホテルでもあった。ここでキャパはある著名なアメリカ人作家と邂逅する。アーネスト・ヘミングウェイである。2人は直ちに意気投合する。キャパはヘミングウェイとの初めての邂逅について、「われわれの友情が始まったのは、あの懐かしい時代だった。まだ若い駆け出しのフリーカメラマンだった私は、すでに著名の作家であった彼と、1937年共和国のスペインで初めて知りあった。どこにいっても彼は親父と呼ばれ、私はすぐに彼と養子縁組をした」と回想している。

当時、ヘミングウェイは、NANA(北米新聞協会)の特派員として都合4回共和国陣営を取材し報道していた。(ちなみに、彼の「マドリッド無感覚」という長い記事が、2枚の現場写真付きで、1937年7月19日付けの『東京朝日新聞』に掲載されている)。キャパと会ったときのヘミングウェイは、同じくアメリカの作家ジ

ョン・ドス・パソス、さらに後に合流することになる女流劇作家リリアン・ヘルマンなど、またオランダ人のドキュメンタリー映画監督ヨーリス・イヴェンスらとともに、共和国支援のプロパガンダ映画『スペインの大地』の制作のためにこのホテルに拠点を構えた。この映画の台本とナレーターはヘミングウェイ自らが担当する。4月8日、映画制作クルーは首都のバレンシアへ赴き、関係官庁への挨拶と打ち合わせを行い、翌日はアルバレス・デル・ヴァイョ外相主催の昼食会に招待される。



ところで、ドス・パソスには深刻な事態が待っていたのだ。彼 が1916~17年のスペイン滞在中に知り合い、その後アメリカ のジョンス・ホプキンズ大学でスペイン語教授となり、ドス・パソ スの作品のスペイン語訳を一手に引き受けていたホセ・ロブレ スが、昨年の夏一家でスペインで休暇を楽しんでいる最中に内 戦が勃発する。ロブレス一家は戦禍を避けてアメリカに戻れた のだったが、ロブレスがロシア語を話せるということで、共和国 陸軍省に雇われる。身分は陸軍中佐。バレンシア港に軍需品な どを搭載して初寄港したロシア貨物船との交渉を任される。36 年の秋からは、ロシア軍のゴリエフ将軍の英語通訳官として勤 務するが、その後、36年の年末か37年の初頭にかけて、ロブレ スがバレンシアで突然逮捕されたのだ。ドス・パソスがバレンシ アに着いた日の午後、肝胆相照らす友のアパートを訪れる。ロブ レス夫人から事の顛末を聞くが、現在彼がどうしているのか皆 目わからない。考えられるのは、彼の家庭的な背景が疑惑を生 んだということらしい。彼の兄はアルフォンソ13世の参謀将校で あり、現在はフランコ叛乱軍の戦列で戦っていたからだ。ともあ れ、翌日の外相主催の昼食会の席で、ドス・パソスが外相にロブ レスの件を持ち出す。外相は全く知らないが、この件の徹底的な 究明を約束する。他の政府関係者たちは、彼は安全だと太鼓判 を押してくれた。結局、彼が八方手を尽くして得た情報はすでに ロブレスはフランコ側のスパイという罪名で処刑されていたのだ った。ドス・パソスは直ちに映画制作クルーから身を引き、ヘミン グウェイと一悶着を引き起こし帰国の途に就く。その後『スペイ ンの大地』は完成し、ホワイトハウスでルーズベルト大統領夫妻 の隣席のもと、試写会を行った。スペイン共和国支援の募金運 動もそれなりの成果を挙げることができた。

-次回につづく-



## 川成洋 かわなりよう / Yo Kawanari

1942年札幌で生まれる。北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修介。社会学博士(一橋大学)。法政大学名誉教授。スペイン現代史学会会長、武道家(合気道6段、杖道3段、居台道4段)。書評家、主要書書:青春のスペイン戦争。(仲公新書)、『スペイン一未完の現代史』(彩流社)、『スペイン一歴史の旅』(人間社)、『ジャック白井と国際旅団一スペイン内戦を戦った日本人』(中公文庫)、「FA

スペインのお勧め ール・レストラン Bares y restaurantes recomendables

## Vol. 12 **RESTAURANTE ORIZA** レスタウランテ・オリサ

(Sevilla / セビージャ)

セビージャ中心部、旧タバコ工場(現在セビージャ大学舎)前に位置するレス タウランテ・オリサは、老舗中の老舗といって間違いないであろう。オリサはセ ビージャでバスクーアンダルシア料理が楽しめる実に贅沢な空間で、シェフは もちろんバスク人である。入り口を入ると明るいバールスペースが迎えてくれ、 奥に進むと1929年の大邸宅の温室構造が残されているレストランがある。 個室も複数あるのでパーティー開催も可能だ。鮮やかなその空間は料理の Vanguardia(前衛)さにほどよくマッチし特別で唯一の雰囲気を創りだしてい る。気軽にタパスが楽しみたい方は、外のテラスもしくはバールスペースでどう ぞ。旧タバコ工場と路面電車を眺めながら典型的なセビージャを楽しむには ぴったりの場所だ。位置的に観光客も多いが、会食で利用している富裕層セ ビジャーノスも多い。街ではめったに目に留まらないスーツを着ているセビジ ャーノスをここでは見ることができる(笑)。ワイン種はボードに記載されている が、ボード下部の日替わりメニュー(昼部のみ)もお見逃しなく。専属パティシ エがいるため手作りデザートにも期待が膨らむのは間違いない。ここはいつ 訪れても客を優雅な気分にしてくれる店だ。



### 田中富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォワーダー、米酒信機会社動務後、2001年よりセピージャ在住。2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・ティスター における大ケのエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに、現在は、オリーブオイルコース、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモッ -の熱い人間です。HP: www.creapasion.com / http://spain.fc2web.com







プン時からたくさんの客が訪れるバールスへ 2. 暑い夜も冷たいスチームで快適!3. タパス(ホ カムース、クルマエビのシ え)3.95ユーロ 4 タバ スパンのムース、フルマエこのシードとドンノース添え)3.95ユーロ 4. タバス(串つきーズと去勢雄牛のミニ・ハンバーガー) 4ユ



### ♣ Información

## RESTAURANTE ORIZA (レスタウランテ・オリサ)

住所: Calle San Fernando, 41, SEVILLA 電話:+34 954 22 72 54

www.restauranteoriza.com ※ 上記情報は、2015年8月時点のもので変更する可能性があります。



# マドリード在住15年 旬のスペイン情報をお届けします スペイン小橋 4



## スペインとトマトの微妙な関係

スペイン料理には欠かせないトマト。あらゆ る料理に使われていて、1人当たり1年間にお よそ13キロほど消費すると言われています。 その種類も大変豊富で、スペイン人のトマト に対するこだわりが垣間見れます。

サラダや前菜には、果肉が固めで香りが豊 かな雄牛の心臓(CORAZON DEL BUEY) と呼ばれる品種やROSAという品種のトマト がぴったり。煮込みには真っ赤で皮の薄い完 熟PERA種、RAF種やRAMA種。包丁さえ持 ちたくないときはチェリートマト。特に最近シ ェフの間で人気が高いKUMATO種は自然 交配を繰り返して作られた比較的新種のも ので、普通のトマトより色が黒く、甘みが強く ジューシーなので、私はガスパッチョによく使

このようにトマトはスペイン料理ではスター 的材料なのですが、生産過剰と外国産トマト (特にオランダの最先端技術を投資して1年 中大量生産されるハウストマト)の販売量増 加のため、生産と供給のバランスが崩れ始め てもいます。

人気のある国内産ブランドトマトは高級生 ハムにちなんで通称パタネグラとも呼ばれ、1 キロ8ユーロほどになった年もあれば、人気 の一方生産過剰となり値段は暴落、ブランド 力まで低下して1キロ1ユーロ以下になってし まったりもするのです。安いのは消費者にとっ てはありがたいのですが、生産者にとっては ちっとも面白くない問題。生産コストより安い 値段で買い取られるくらいなら捨てたほうが ましだ、となってしまいますよね。

トマトの旬真っ盛りの8月は、バレンシア州 の街、ブニョールでトマト祭りが開かれる月で もあります。いまや世界中から若者が押しか ける大人気のイベントに変わりましたが、こう いった社会的事情を揶揄するかのごとく泥 同然に投げられ踏みつぶされる何トンものト マトに少し複雑な想いも抱いてしまう今日こ の頃です。



"パタネグラ"と称され売られていたトマト。味は 一級品、値段は大量生産品、2キロ半1ユーロ。



土屋寛子 っちやひろこ / Hiroko Tsuchiva -ドに15年在住。仕事のビザで渡西、日系 マドリー 企業に勤務。スペイン人の夫と4歳の娘と暮らし ている. ブログ「スペインの扉」

プログ・スペインの扉」 spainnotobira.com もっと増やそ うぞお越し下さい!

### 西宮市国際交流協会

# スペイン語おしゃべりの会

活動報告 2015.6.7



Costumbres y Tradiciones de México (メキシコの風習と伝統))

6月7日にはメキシコの女性Violeta Gonzálezさんに「Costumbres y Tradiciones de México」(メキシコの風習と伝統)という題で、話して頂きました。当日は、大きな紙袋を何個も両手に持って会場に現れました。メキシコの象徴とも言えるソンブレロ、布織物の敷物、小物民芸品、メキシコ紹介のパンフレット類、そして出席者全員の試食・試飲用に自家製のメキシコの食べ物、飲み物を運び込んでくれたのです。メキシコ国旗も飾られ、会場はメキシコの雰囲気が出来上がり出席者の期待はいやがうえにも盛り上がりました。

先ずメキシコの歴史を古代文明、植民地時代、独立、革命と歴史の順を追って説明してくれました。特に印象に残ったのは、現在のアメリカ合衆国の領土の多くはメキシコの領土だったと力説されたことでした。メキシコにあった「アステカ王国」はスペイン人エルナン・コルテスに征服されるとNueva Españaと名付けられたこと、そして「メキシコ独立の父」イダルゴ神父の武装蜂起の話もされました。話が進むほどに益々情熱的に早口で、しかしはっきりとした口調で話をされ出席者は熱心に聞き入っていました。

それから、クリスマスの一連の行事をNoche Buena、Navidad、Los Reyes Magosに分けて、欠いでSemana Santa、Pascua、独立祭、Día de los Muertos、革命記念日、等の祭日のメキシコ人の過ごし方の説明があり、独特の着飾りやメイキャップをしたり、音楽をガンガン流して踊ったりして楽しむ様子を映像で紹介してくれました。最後にVioletaさんが幼い時代に過ごしたTijuana (国境の町)をご主人と小さな子供さん

と訪ねた時の録画も見せてくれました。エキゾチックな雰囲気、豊富な食べ物からメキシコのエネルギーを強く感じました。

次回の「スペイン語おしゃべりの会」は10月10日(土)にスペイン人の Juan Manuel Díazさんが、ご出身のCoria del Ríoと Sevillaの話を して下さる予定です。 文・写真提供 谷善三



### ▶次回開催のお知らせ

日程:2015年10月10日(土)午後2:00~3:30 ゲスト:Juan Manuel Díazさん 場所:〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮 4階 (分財)西宮市国際交流協会 会議室

電話: (0798)32-8680 FAX: (0798)32-8678 E-mail: nia930@sound.ocn.ne.jp 参加費: 500円 定員: 30名(先着順)

※お申し込みはお電話、FAX、E-mailにて

スペインにまつわるエピソード紹介



# 読者コーナー

今回の投稿者: Manuela Machiko

## 「Fallasに参加して」

父がバレンシアに住んでいるので、時々会いに行きます。先日、初めて Fallasというスペインで最も有名なお祭りに参加してきました。1年がかり で作った青森の「ねぶた」にも匹敵する巨大な張り子人形が各通りに飾られ、それらを中心としてなんと5日間に渡って、朝から真夜中そして翌朝まで飲み、食べ、歌い、踊り続けます。最後の夜には爆竹で人形を燃やしてしまいます。その炎と煙は20m以上の高さに上り、天を焦がすような勢いで人々を熱狂させます。その炎が燃え尽きた時、再び日常に戻ってしまう悲しさに涙する人たちもいます。けれどもこのお祭りが終わらなければ本当の春は来ないのです。

私も父がセッティングしてくれたおかげでFallera(伝統的な衣装を着た女性且つお祭りを盛り上げる人)としてパレードに参加することができ、期間中はお友達と仮装をしたり、寝ることも忘れて歌い踊り明かしました。何よりも嬉しかったのは町内の人達に顔と名前を覚えてもらい、世代を越えて親切にしてもらったことです。

本当に短い期間でしたが、昔からの仲間のように迎え入れてくださった心の温かさにとても感動しました。

バレンシアならではの熱狂的なイベントと人懐っこい民族性にすっかり魅了させられました。来年も是非参加したいと思っています。





















語学・留学経験を活かしてみませんか?

仕事内容:・スペイン語教室受付・電話応対 ・留学サポート

•スペイン関連商品の管理および発送業務

•情報誌 制作 •編集業務サポート

・通訳・翻訳 ・その他の関連業務

応募条件: ・スペイン語スキル (DELE B1程度)

・英語 (簡単な読み書きができる程度)

•PCスキル:Word, Excel必須

※Power Point, Illustrator, Photoshopの基本操作ができれば尚可

歓迎スキル:・生徒さんと明るく接し、気持ちのよい対応ができる方

・業務が多岐にわたるので、責任感があり、 複数の業務を同時に進行することが得意な方

・留学経験のある方

雇用形態: アルバイト ※試用期間有

給与·待遇: 時給900円~ ※交通費支給(上限2万円)

勤務時間: 10:00-18:45、13:00-21:45の2部シフト制

※调2日以上/3時間~※夜勤務できる方歓迎

応募方法: 写真添付の履歴書(スペイン語・日本語)を郵送もしくはメール

にて送付してください。書類選考後、通過された方のみ面接の

日時をご連絡いたします。

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F 有限会社ADELANTE 採用係 / info@adelante.ip

# acueducto & 広告を掲載しませんか?

「スペイン情報誌acueducto」は今年で創刊5周年を迎え、 スペイン大使館などの公共施設、スペイン語学科のある大 学や語学学校などの教育機関、またレストランやバルなど、 日本全国のスペインに関する施設に配布しています。

1コマ (4.5cm×4.5cm) ¥5,000-/掲載1回分 ¥18,000-/掲載4回分

- 2⊐マ (4.5cm×9.3cm) 掲載料(1回分)¥10,000 掲載料(4回分)¥36,000
- 4コマ (4.5cm×18.9cm) 掲載料(1回分)¥20,000 掲載料(4回分)¥72,000
- 12コマ (1/2頁 14.1cm×18.9cm) 掲載料(1回分)¥60,000 掲載料(4回分)¥216,000

## ✓ お申込み

お申込みの際は、ご希望のサイズ・掲載希望号 をご連絡ください。

※広告の掲載場所を指定することはできません。

サイズ・料金は下記サイトより確認できます www.acueducto.jp/publicidad

【お問合せ・お申込み先】 有限会社ADELANATE Tel:06-6346-5554 Email: info@acueducto.jp



いつでも好きな時に学べる スカイプを使った オンライン・スペイン語 スクールです。





入会金ゼロ!











http://ahora-esp.com

## **CURSOS DE ESPAÑOI**

- スペイン語一般コース
- スペイン語+インターンシッププログラム
- スペイン語+バスク料理
- スペイン語+サーフィン
- ホームステイ、ルームシェア、送迎サービス等

親切なスタッフと細かなサポート

一年を通して、短期留学から長期留学が可能

info@lacunza.com www.lacunza.com









茨城県守谷市ひがし野3-11-2 TEL 0297-45-2740 http://dulcemina.jp/



長崎県西彼杵郡時津町左底郷290-1 TEL: 095-860-8180 FAX: 095-860-8181



Tel & Fax 06-4390-6545 Email: spaintile@japan.email.ne.jp http://homepage1.nifty.com/spaintile/



確かな技術と音楽する心を育てる

## 吉川二郎ギター教室

初心者歓迎!

## コンサートフラメンコギター クラシックギター & ギタルパ

花屋敷教室(宝塚市) 天満橋教室(大阪市) 東京教室(月1回) 静岡教室(月1回) ギターサークルJIRO(富士市)

お問合せ・入会のお申込みは TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで

吉川二郎 検索

# Sampere

洗練された質の高い授業と、

desde 1956

スペイン・ラテンアメリカに5校舎展開。 生徒一人ひとりに合ったケアを行います。 Estudio Sampereは、60年の歴史ある語学学校です。

また、どの年齢層にも対応したプログラムをご用意。 スペイン語だけではなく専門分野の知識も学べます。



## スペイン語作文の方法[構文編]

小池和良 著 四六変型判 258 頁 CD 付 定価 2,700 円

時事スペイン語作文 658 題を通し、正しい構文を選ぶ感覚をつけよう! ●165 の構文パターン別に, 課題文 165 と練習 493 題を訳しながら, 作 文力を確実に身につけることを目標としています. ●実践的な解説と豊富 な例文によって, 文法規則に従い, 意味が正しく通じるスペイン語を書 く力を養成. ●課題文の日本文・解答例を対訳形式で収録した CD 付.

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 106 ★価格は消費税8%込みです Tel. (03)3267-8531 Fax. (03)3267-8606 http://www.daisan-shobo.co.jp

## acueducto 定期購読のご案内

1~7冊 ¥1,200 (1年間:4号分) 8~14冊 ¥2,400

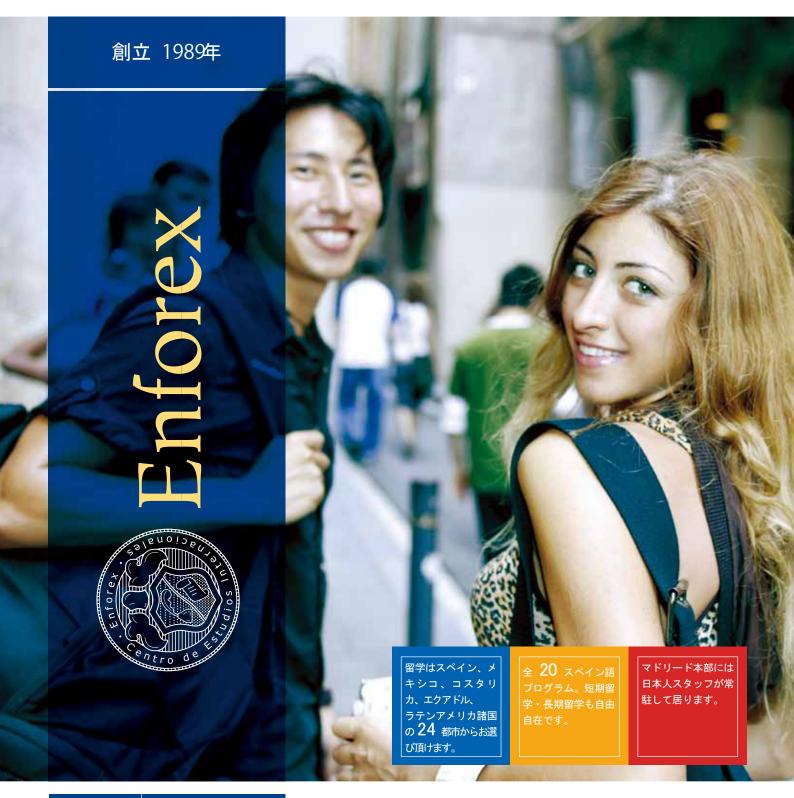
定期購読ご希望の方には、送料をご 負担いただき、ご自宅までお届けしま す。ご希望の方は、お申込書をお送り 致しますので下記連絡先までお問合 せ下さい。

【お問合せ・お由込み先】 有限会社ADELANATE Tel: 06-6346-5554 info@acueducto.jp





# スペインとラテンアメリカにて 最先端を行くスペイン語学校



認定校:



▲ ヘッドオフィス

Gustavo Fernández Balbuena,11 | 28002 Madrid

Phone: +34 91 594 37 76 Fax: +34 91 594 51 59 E-mail: asia@enforex.es

ideal







Fly to Spain with Turkish Airlines. Discover harmony















# スペイン&中南米への留学サポー

## 留学相談、手続き代行無料サービス



- 学校への出願サポート
- 学生ビザ申請書記入のお手伝い
- 留学費用の海外送金
- ホームステイ、寮、又はシェアフラット、 アパート等の申込み
- 空港出迎えサービスなど、 各種オプションサービスの依頼代行

www.spainryugaku.jp info@spainryugaku.jp TEL:06-6346-5554

## 安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富にライ ンアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝 いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイプログラム、スペイン語+フ ラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、など楽しいプログラムもあります。

## スペイン全土、メキシコ・チリ・ペルーなど 数多くの語学学校と提携

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。 入学申請書類の作成や必要な書類の送付、 留学費用の海外送金などは全て代行いたします。





www.adelante.jp

info@adelante.jp TEL:06-6346-5554

大阪市北区梅田2-5-8千代田ビル西別館2F FAX:06-6110-5122

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アクエドゥクト] 発行元





# スペイン語教室 ADELANTE

# 「私のスペイン語、通じた♪」を実感

- ●ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語をマスター
- ●定員6名までの少人数制グループレッスン
- ●ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ●振替ができるので忙しくても安心
- ●楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ●目的やペースに合わせて選べるコース (一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・スペイン語の本を読むコースetc.)

お問合せ下さい



# ADELANTE

www.adelanteshop.jp

学習テキスト、文法問題集、 レベル別副読本、D.E.L.E.試験対策本、 絵本など各種取り扱っています。

送料全国一律280円。 8,000円以上のお買い上げで 送料無料!